

歯科衛生第Ⅰ学科及び歯科衛生第Ⅱ学科 教育課程

分野	教育内容	科目名	指定規則 単位数	単位数	時間数	履修年次					
						1年次		2年次		3年次	
						単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活	生物学	10	1	30	1	30				
		化学		1	30	1	30				
		医療倫理学		1	30	1	30				
		心理学		1	30	1	30				
		歯科英語		1	30	1	30				
		情報リテラシー		1	30	1	30				
		健康社会学		1	15	1	15				
		コミュニケーション論		1	15	1	15				
		国語表現法		2	60	2	60				
	小計	10	10	270	10	270					
専門基礎分野	人体（歯・口腔を除く。）の構造と機能	解剖学	15	2	30	2	30				
		生理学		2	30	2	30				
	歯・口腔の構造と機能	口腔解剖学		1	30	1	30				
		歯の解剖学		1	30	1	30				
		口腔生理学		1	30	1	30				
		組織・発生学		2	30	2	30				
		臨床医学概論		1	30			1	30		
	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	病理学・口腔病理学		2	30	2	30				
		生化学・口腔生化学		1	30	1	30				
		微生物学・口腔微生物学		1	30	1	30				
		薬理学・歯科薬理学		1	30	1	30				
		口腔衛生学		2	30	2	30				
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	衛生学・公衆衛生学		2	30	2	30				
		歯科衛生統計学		1	30			1	30		
		衛生行政・社会福祉学		1	30					1	30
		栄養学		1	30			1	30		
		小計		22	22	480	18	360	3	90	1
専門分野	歯科衛生士概論	歯科衛生士概論	2	2	30	2	30				
	臨床歯科医学	歯科臨床概論	8	1	30	1	30				
		保存修復・歯内療法学		1	30	1	30				
		歯科補綴学		1	30			1	30		
		歯周病学		1	30			1	30		
		口腔外科学		1	30			1	30		
		小児歯科学		1	30			1	30		
		歯科矯正学		1	30			1	30		
		歯科放射線学		1	30	1	30				
		高齢者歯科学		1	30			1	30		
		障害者歯科学		1	30			1	30		
	歯科予防処置論	歯科予防処置論Ⅰ	8	1	30	1	30				
		歯科予防処置論Ⅱ		1	30	1	30				
		歯科予防処置論Ⅲ		1	30	1	30				
		歯科予防処置論Ⅳ		1	30	1	30				
		歯科予防処置論Ⅴ		2	60			2	60		
		歯科予防処置論Ⅵ		1	30			1	30		
		歯科予防処置 総合		1	30					1	30
	歯科保健指導論	歯科保健指導論Ⅰ	7	1	30	1	30				
		歯科保健指導論Ⅱ		2	60	2	60				
		歯科保健指導論Ⅲ		1	30			1	30		
		歯科保健指導論Ⅳ		1	30			1	30		
		歯科保健指導論Ⅴ		1	30					1	30
		歯科保健指導 総合		1	30					1	30
	歯科診療補助論	歯科診療補助論Ⅰ	9	1	30	1	30				
		歯科診療補助論Ⅱ		2	60	2	60				
		歯科診療補助論Ⅲ		2	60			2	60		
		歯科診療補助論Ⅳ		1	30			1	30		
		歯科診療補助 総合		1	30					1	30
		臨床検査		1	30			1	30		
		救急処置・心肺蘇生		1	30			1	30		
	臨床実習（臨床実習を含む。）	臨床基礎実習	20	1	45			1	45		
		臨地・臨床実習Ⅰ		7	315			7	315		
		臨地・臨床実習Ⅱ		10	450					10	450
		臨地・臨床実習Ⅲ		3	135					3	135
	小計	54	57	1995	15	420	25	870	17	705	
選択必修分野	歯科保険請求事務 コミュニケーション技法 介護技術 摂食・嚥下 オーラルメディシン 看護概論 研究の基礎	7	1	30					1	30	
			1	30			1	30			
			1	30			1	30			
			1	15			1	15			
			1	30			1	30			
			1	30					1	30	
			1	30					1	30	
	小計	7	7	195			4	105	3	90	
総計	93	96	2940	43	1050	32	1065	21	825		

目 次

基礎分野

～科学的思考の基礎 人間と生活～

生物学	-----1
化学	-----2
医療倫理学	-----3
心理学	-----4～5
歯科英語	-----6
情報リテラシー	-----7～8
健康社会学	-----9
コミュニケーション論	-----10
国語表現法	-----11～12

専門基礎分野

～人体（歯・口腔を除く。）の構造と機能～

解剖学	-----13
生理学	-----14～15

～歯・口腔の構造と機能～

口腔解剖学	-----16
歯の解剖学	-----17
口腔生理学	-----18～19
組織・発生学	-----20

～疾病の成り立ち及び回復過程の促進～

臨床医学概論	-----21～22
病理学・口腔病理学	-----23
生化学・口腔生化学	-----24～26
微生物学・口腔微生物学	-----27～28
薬理学・歯科薬理学	-----29

～歯・口腔の健康と予防に関わる

人間と社会の仕組み～

口腔衛生学	-----30
衛生学・公衆衛生学	-----31～32
歯科衛生統計学	-----33
衛生行政・社会福祉学	-----34～35
栄養学	-----36～37

専門分野

～歯科衛生士概論～

歯科衛生士概論	-----38
---------	---------

～臨床歯科医学～

歯科臨床概論	-----39
保存修復・歯内療法学	-----40～41
歯科補綴学	-----42～43
歯周病学	-----44～45
口腔外科学	-----46～47
小児歯科学	-----48
歯科矯正学	-----49～53
歯科放射線学	-----54
高齢者歯科学	-----55～57
障害者歯科学	-----58～59

～歯科予防処置論～

歯科予防処置論Ⅰ～Ⅵ	-----60～65
歯科予防処置 総合	-----66

～歯科保健指導論～

歯科保健指導論Ⅰ～Ⅴ	-----67～72
歯科保健指導 総合	-----73

～歯科診療補助論～

歯科診療補助論Ⅰ～Ⅳ	-----74～79
歯科診療補助 総合	-----80
臨床検査	-----81
救急処置・心肺蘇生	-----82

～臨地実習（臨床実習を含む。）～

臨床基礎実習	-----83
臨地・臨床実習Ⅰ～Ⅲ	-----84～86

選択必修分野

歯科保健請求事務	-----87～88
----------	------------

基礎分野

科学的思考の基礎
人間と生活

授業要項詳細

科目名	生物学	科目分類	基礎分野
担当教員	蓮沼 裕也	授業形態	講義
対象学年	1 年次	開講時期	前期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	歯科衛生士として専門知識を学ぶための基礎となる解剖・組織学、生理学、生化学を理解するには、生物学が基盤となる。高校までの生物学の履修に関わらず、歯科衛生士を目指す全員が知っておくべき内容を教授する。さらに、ヒトが対象となる医療職種として相応しい「生命科学への興味」と「学び続けること」を促す授業を行う。
科目の到達目標	1. 生命の成り立ちを理解している。 2. 地球上に存在する細胞の違いと特徴を理解している。 3. 細胞の分裂と遺伝について理解している。 4. 動物がもつ生体反応の概略について理解している。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	生命の誕生と変遷	講義	- すべての授業において、最初に授業到達目標を提示する。 - 授業中は、それを意識して、その時間に理解する気持ちで臨むこと。 - 授業到達目標で理解できなかった箇所を復習すること。 - 授業の最後に提示する授業到達目標に関連した穴埋め問題で振り返りを行うこと。
2	原核細胞と真核細胞	講義	
3	細胞を構成する物質① 糖質・脂質・タンパク質	講義	
4	細胞を構成する物質② 核酸・無機質・その他	講義	
5	染色体と遺伝子	講義	
6	体細胞分裂と減数分裂	講義	
7	DNA、RNA、タンパク質① DNAの複製	講義	
8	DNA、RNA、タンパク質② 転写・翻訳	講義	
9	遺伝と遺伝病	講義	
10	生物の発生	講義	
11	ヒトの組織と臓器	講義	
12	神経系による刺激の伝達	講義	
13	体内恒常性の調節	講義	
14	生体防御	講義	
15	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	自分の身の回りで起きている事柄に着目し、それが授業の中のどのような学習内容と関連するか考えること。生命科学・自然科学の学習で心掛けることは、身の回りの現象に気づくアンテナを立てて調べることである。それを時間外学習の課題とする。
----------	---

成績評価の方法	終講試験にて評価する。
---------	-------------

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 生物学」（医歯薬出版株式会社）
------------------	----------------------------

授業要項詳細

科目名	化学	科目分類	基礎分野
担当教員	蓮沼 裕也	授業形態	講義
対象学年	1 年次	開講時期	前期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	歯科衛生士として専門知識を学ぶためには、ヒトや扱う医療器材が何でできているかをしっかりと理解する必要があり、その基礎となるのが化学である。さらに、ヒトの代謝を学ぶ生化学では、代謝を化学構造・化学反応で理解しなければならない。そのため、高校までの化学の履修に関わらず歯科衛生士を目指す全員が知っておくべき内容を教授する。
科目の到達目標	1. 原子と分子の違い、ならびに物質の概念を理解している。 2. 物質の三態を理解し、その基本的な理論や法則を説明できる。 3. 有機化合物と無機化合物の違いと生体との関わりを理解している。 4. 物理量や濃度の計算ができる。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	原子の構造、分子	講義	- すべての授業において、最初に授業到達目標を提示する。 - 授業中は、それを意識して、その時間に理解する気持ちで臨むこと。 - 授業到達目標で理解できなかった箇所を復習すること。 - 授業の最後に提示する授業到達目標に関連した穴埋め問題で振り返りを行うこと。
2	化学結合の種類と特徴	講義	
3	物質量と濃度	講義	
4	物質の状態と法則	講義	
5	酸とアルカリ	講義	
6	中和反応	講義	
7	酸化と還元	講義	
8	中間試験	中間試験	
9	無機化合物① 族の特徴・金属の特徴	講義	
10	無機化合物② イオン結合・歯科に用いる金属	講義	
11	有機化合物① 基礎・官能基	講義	
12	有機化合物② 有機化合物の種類と特徴	講義	
13	高分子化合物・生体物質① DNA、RNA、蛋白質	講義	
14	高分子化合物・生体物質② 糖質・脂質・その他	講義	
15	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	自分の身の回りで起きている事柄に着目し、それが授業の中でどのような学習内容と関連するか考えること。生命科学・自然科学の学習で心掛けることは、身の回りの現象に気づくアンテナを立てて調べることである。それを時間外学習の課題とする。
----------	---

成績評価の方法	中間試験（原則50%）および終講試験（原則50%）にて評価する。
---------	----------------------------------

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 化学」（医歯薬出版株式会社）
------------------	---------------------------

授業要項詳細

科目名	医療倫理学	科目分類	基礎分野
担当教員	古尾谷 薫	授業形態	講義
対象学年	1 年次	開講時期	前期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	1. 「人の命」がこの世の最高価値であることを深く認識する。 2. 法で守られる命や人の一生を憲・民・刑法を通して学び、とりわけ民法が実生活に機能していることを知る。 3. 倫理の視点から、医療の発展が法より著しく早いことを考察する。
科目の到達目標	1. 法というものの考え方（「何故」）を実践的に（「なぜなら」）生かすことができる。 2. 基本的法律用語をふまえ、行為の目的・手段の相当性を説明することができる。 3. 判断の分かれる問題につき、倫理的視点に立って考えることができる。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	医療倫理とは何か 法とは何か（道徳・習慣・法律）	講義	・「命」をテーマにした小論文の書き方、約束事を開示する。 ・六法の他、社会保障法を加味する。 ・近時の刑法犯を全員で共有する。 ・出生 成人 ——— 婚姻 死亡 離婚 ・自身や患者に想定できる人生の法的基礎を学ぶ。 ・医療と法の視点の対立を学ぶ。 ・提出した小論文を添削する。 授業終了5分前に個別に一言添えて返却する。
2	小論文対策（原稿用紙のルール）	講義	
3	基本六法Ⅰ（憲・民・刑・商・民訴・刑訴）	講義	
4	基本六法Ⅱ（憲法の原理）	講義	
5	基本六法Ⅲ（刑法の原理）	講義	
6	出生から死亡（人の一生）	講義	
7	出生（民法：出生と医療倫理）	講義	
8	死亡（民法：死亡と医療倫理）	講義	
9	民法（親族法Ⅰ）	講義	
10	性と生殖（性と医療倫理）	講義	
11	民法（親族法Ⅱ）	講義	
12	民法（相続法Ⅰ）	講義	
13	民法（相続法Ⅱ）	講義	
14	民法（後見制度）	講義	
15	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	「命」をテーマにした小説、または映画を鑑賞して、思うところを800字以内の小論文にして提出する。（添削して返却する。）
----------	---

成績評価の方法	出席率にて終講試験の受験資格を判断する。 小論文と終講試験を合算し、平均値で評定する。
---------	--

使用テキスト 参考文献 他	「法学六法25」（信山社出版） 「医師が知っておきたい倫理学・医療倫理」（中外医学社） 「医療関係者のための実践的法学入門 第2版」（成文堂）
------------------	--

授業要項詳細

科目名	心理学	科目分類	基礎分野
担当教員	浮谷 秀一	授業形態	講義
対象学年	1 年次	開講時期	後期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	心理学は人間について研究を積み重ね、多くの人間に関するデータを収集してきた。そのデータを解説しながら、人間についての理解を深めていく。取り上げる分野は、人間が生まれてから死ぬまでの特徴理解を目指す発達心理、どのようにすれば適応できるかの理解を目指す適応心理、人間のもつ性格の理解を目指す性格心理、新しい行動を獲得するメカニズムの理解を目指す学習心理である。
科目の到達目標	1. 人間の成長・発達について理解できている。 2. 適応することについて理解できている。 3. 性格の特徴について理解できている。 4. 新しい行動が獲得されるメカニズムについて理解できている。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	授業ガイダンス 心理学とは	講義	評価および受講の仕方について説明する。
2	1. 発達心理 (1) 発達とは (2) 発達の特質	講義	板書した後、解説する。
3	1. 発達心理 (2) 発達の特質 (3) 遺伝と環境	講義	板書した後、解説する。
4	1. 発達心理 (3) 遺伝と環境	講義	板書した後、解説する。
5	1. 発達心理 (3) 遺伝と環境	講義	板書した後、解説する。
6	1. 発達心理 ※遺伝と環境に関連して	講義	事例を板書した後、解説する。事例に関連した課題を提示し、中間試験を実施する。
7	2. 適応心理 (1) 欲求とは (2) 欲求5階層説	講義	板書した後、解説する。
8	2. 適応心理 (3) 欲求不満と欲求不満耐性 (4) 適応機制	講義	板書した後、解説する。
9	3. 性格心理 (1) 性格とは (2) 性格のとらえ方	講義	板書した後、解説する。
10	3. 性格心理 (3) 性格の測定法	講義	板書した後、解説する。
11	中間試験	中間試験	課題に対する学習成果を評価する。
12	3. 性格心理 (3) 性格の測定法	講義	板書した後、解説する（検査実習を含む）。
13	4. 学習心理 (1) 学習とは	講義	板書した後、解説する。
14	4. 学習心理 (2) 学習過程のメカニズム	講義	板書した後、解説する（動画鑑賞を含む）。
15	終講試験および解説講義	終講試験 解説	授業理解度を評価する。

授業外学習の指示	事前に授業で取り上げる事柄について、教科書の該当する部分を読んでおくこと。 終了した授業の内容が理解できているか確認すること。必要に応じて復習をすること。
成績評価の方法	中間試験（４０％）、終講試験（６０％）にて評価する。
使用テキスト 参考文献 他	「こころの発達と学習の心理」

授業要項詳細

科目名	歯科英語	科目分類	基礎分野
担当教員	川崎 圭子・淵 真理	授業形態	講義・演習
対象学年	1 年次	開講時期	前期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	日本医療教育財団「医療英会話技能認定」資格取得を目標とし、英語4技能を様々なアプローチから修得する。さらに歯科衛生士として臨床場面で日本語を解さない主に英語圏の患者を想定し、主体的に課題を解決する力を修得する。
科目の到達目標	1. 主に言語面で必要な英語圏の文化と日本の文化の差異を理解する。 2. 発信型のコミュニケーションを意識し英会話を楽しむ。 3. 臨床場面で日本語を解さない患者の問題点を知り歯科衛生士としてその対応策を推測できる。 4. 上記目標達成のための必要な英語知識・技能の習得として「医療英会話技能認定」試験合格。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1・2	Course Guidance Self-introduction in English How to greet patients warmly	講義・演習	実践演習 日本医療教育財団「医療英会話技能認定」資格取得を目標とし、医療英語の基礎の確立を目指す。 Cross Cultural Communication 英語と日本語を比較しながら、異文化間コミュニケーションの重要性を考える。
3・4	First Visit Filling in the Registration Form (Medical Department)	講義・演習	Medical Vocabulary Training 単調になりがちな医療英単語をゲームや脳トレ、アプリを活用しながら効果的に学習する。
5・6	Interview Taking Medical History (Body Parts & Parts of the Mouth)	講義・演習	Quiz/Game 英会話に対する心理的抵抗を軽減し積極的なコミュニケーション姿勢を育成する。 Songs
7・8	Examination Asking about Symptoms (Illness & Symptoms)	講義・演習	個々のワードに集中して聞き取ることで英語の音を正しく理解する。歌詞の英文で文法・語彙・構文理解を目指す。街中に流れる比較的新しい曲を用いる事で学習意欲の向上を目指す。
9・10	Diagnosis Giving Advise (Terms for Dental Treatment)	講義・演習	Reading 歯科衛生士の日常業務を扱った英文テキストを用い、内容理解を深めると共に、語彙・構文・背景文化への理解を促す。合わせて、リーディングを通した効果的な英語学習方法を習得する。
11・12	Payment & Appointment (Medical Equipment)	講義・演習	Free Talking 事前に準備した日常の話題をテーマに英会話を自由楽しむ。 Presentation
13・14	Presentation Playing with Confidence	講義・演習	歯科クリニックを想定した患者・スタッフ間の英語コミュニケーションを、ロールプレイング形式で反復練習する。実践的な場面設定を通して、現場で即応できる英語運用能力の習得を目指す。
15	Final Exam	終講試験 解説	

授業外学習の指示	予習および復習をしっかりと行うこと。
----------	--------------------

成績評価の方法	プレゼンテーション、終講試験および講義参加を加味し総合的に評価する。
---------	------------------------------------

使用テキスト 参考文献 他	Basic English for Medical Office Assistants（南雲堂） 「歯科医学英語ワークブック（金芳堂）」「QUIZLET」（学習アプリ）
------------------	---

授業要項詳細

科目名	情報リテラシー	科目分類	基礎分野
担当教員	高橋 道明・伊藤 嘉章	授業形態	講義
対象学年	1 年次	開講時期	前期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	歯科衛生士として情報社会の中で適切な情報の検索・処理・発信を行うために必要な情報活用能力を修得する。
科目の到達目標	1. 情報社会の中で必要なコンピュータおよび情報の知識を習得し、コンピュータの取扱いの基礎的な技術を身につけることができる。 2. 情報モラルを身につけ、ICTを活用して情報検索をすることができる。 3. 情報検索や情報処理に必要な各種オフィスソフトを使用して、情報を適切に収集、分析及び活用することができる。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	コンピュータの基礎 インターネットの基本と利用上の注意 情報モラルと情報セキュリティについて	講義	・講義においては資料をもとにすすめていく。 ・演習については個人のデバイス（パソコン等）を利用して進めていくので、当日使用できる状態にしておくこと。 ・演習時には課題を提出することがある。課題提出時には、指定のファイル名をつけて提出すること。
2	ネットワークとは インターネットを用いた情報収集について メールの使用方法について	講義	
3	PowerPointの概要と基本操作について① 使用方法の概説と演習による実際の操作	講義	
4	PowerPointの操作について② プレゼンテーションのスライドを実際に作成する	講義	
5	Excelの概要と基本操作について① 表計算ソフトにおける基本操作の概説と演習による実際の操作	講義	
6	Excelの操作について② 表計算ソフトで表やグラフを作成する	講義	
7	Wordの概要と基本操作について① 文書作成ソフトにおける基本操作の概要と演習による実際の操作	講義	
8	Wordの操作について② 文書作成ソフトで装飾した文書を作成する	講義	
9	クラウドを使用した文書管理について	講義	
10	情報活用について① レポート作成に向けて、課題の設定、データ収集	講義	
11	情報活用について② レポート作成	講義	
12	情報活用について③ プレゼンテーション資料作成	講義	
13	情報活用について④ AI、データサイエンスなど	講義	

14	情報リテラシーのまとめ	講義	
15	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	授業前：テキストの内容を確認すること。 授業後：授業で行った内容を確認すること。
----------	---

成績評価の方法	終講試験（45％）および授業課題（55％）にて評価する。
---------	------------------------------

使用テキスト 参考文献 他	参考文献 「基礎からわかる情報リテラシー」（技術評論社）
------------------	------------------------------

授業要項詳細

科目名	健康社会学	科目分類	基礎分野
担当教員	水谷 重憲	授業形態	講義
対象学年	1 年次	開講時期	前期
単位/時間	1 単位／1 5 時間	回数	8 回

授業科目の概要	人々の健康と結びつく現実社会において、人生、夢、生活の場である、街、地域社会、職場、学校、家族、保健医療施設等との関係において理解した上で、その健康を創造する知識とヘルスプロモーションとしての技術を社会学的視点から学ぶ。
科目の到達目標	歯科衛生士として、歯科疾患の予防、歯科保健指導の実践のために、人々の健康や生活に目を向け、多様な視点を持ち、健康増進や疾患に関する情報を活用し、歯科衛生学の各領域を学ぶ基盤となる考え方を学ぶ。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	健康社会学の定義と想像力とその歴史	講義	健康社会学の日本での社会的意義について学ぶ。
2	健康の概念と社会化	講義	健康のイメージや概念について学ぶ。
3	健康行動と日本の健康づくり活動	講義	WHOの活動、日本の健康づくり活動の歴史を学ぶ。
4	ヘルスプロモーション	講義	医学的アプローチ、社会科学的アプローチによるヘルスプロモーション活動について学ぶ。
5	健康な町づくりと家族づくり	講義	ヘルシー・シティーズ・プロジェクト、家族周期について学ぶ。
6	健康な学校づくりと職場づくり	講義	健康な学校づくりを支える5つの活動、ハピネスマネジメントについて学ぶ。
7	健康な病院づくり 死生観 生と死の教育	講義	病院のヘルスプロモーションについて学ぶ。 死へのプロセス、死の4つの側面について学ぶ。
8	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	授業各回の終了後、学習内容についてのまとめを図り、簡潔に振り返りができるようにする。
----------	--

成績評価の方法	授業各回の学習内容について、終講試験（記述式）にて評価する。
---------	--------------------------------

使用テキスト 参考文献 他	「健康社会学」（垣内出版） 関連資料随時配布
------------------	---------------------------

授業要項詳細

科目名	コミュニケーション論	科目分類	基礎分野
担当教員	飯田 智市	授業形態	講義
対象学年	1 年次	開講時期	前期
単位/時間	1 単位／1 5 時間	回数	8 回

授業科目の概要	歯科医療の現場では患者および医療チーム内でのコミュニケーションが重要である。患者の抱える不安を受けとめ、患者の気持ちに寄り添い共感しながら話を聴く力、また患者自らが問題に気づき解決し、行動変容をもたらすために導いていくために必要となる人間関係を構築するためのコミュニケーション力が不可欠となる。医療チーム内でも情報を共有し、連携しながら目的を遂行するために円滑なコミュニケーションが求められる。そのための基礎的な知識や技術を習得する。
科目の到達目標	1. 歯科医療におけるコミュニケーション論の基本的知識を理解する。 2. 被援助者との関係を築くために必要な基礎的なスキルを学ぶ。 3. アサーティブ コミュニケーションについて学ぶ。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	オリエンテーション コミュニケーションとは ケア・コミュニケーションの基本的な心構え	講義	歯科医療におけるコミュニケーションの特徴を理解する。
2	1. 患者との関係を築くコミュニケーション 好感・安心感を高めるコミュニケーション①（非言語コミュニケーション①）	講義	感情表現に関する非言語コミュニケーションの種類を知り、それらの役割を理解する。
3	2. 患者との関係を築くコミュニケーション 好感・安心感を高めるコミュニケーション②（非言語コミュニケーション②）	講義	感情表現に関する非言語コミュニケーションの種類を知り、それらの役割を理解する。
4	3. 患者との関係を築くコミュニケーション 好感・安心感を高めるコミュニケーション③（言語コミュニケーション）	講義	言語コミュニケーションの特徴を知り、その利点と限界を理解する。
5	4. 患者との関係を築くコミュニケーション 好感・安心感を高めるコミュニケーション④（聴くこと）	講義	コミュニケーションスキルのひとつである「聴く」ことが、単なる「聞く」とは異なることを理解する。
6	1. 患者の理解と情報の交換、行動化の支援相手を受容し、共感する わかりやすく説明・提案し、同意を確認する。	講義	一方的に情報を伝えるのではなく、患者の気持ちに寄り添うこと、その上で患者が納得してケアを受けることができるよう説明することの重要性を理解する。
7	2. 患者の理解と情報の交換、行動化の支援相手のやる気を引き出す。 配慮ある支援が必要な患者とのコミュニケーション	講義	患者がケアに参加し続けるために必要なモチベーション維持のためのコミュニケーションのポイントを理解する。
8	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	予習および復習をしっかりと行うこと。
----------	--------------------

成績評価の方法	終講試験にて評価する。
---------	-------------

使用テキスト 参考文献 他	「歯科スタッフのためのケア・コミュニケーション」（株式会社ウイネット）
------------------	-------------------------------------

授業要項詳細

科目名	国語表現法	科目分類	基礎分野
担当教員	柴野 莊一	授業形態	講義・演習
対象学年	1 年次	開講時期	通年
単位/時間	2 単位／60 時間	回数	30 回

授業科目の概要	本科目では国語（日本語）について、論理的に考え適切に表現する能力の修得を目指す。敬語・手紙文・レポート・論文等の作法などについて、種々の実践形式も取り入れながら、授業を実施する。
科目の到達目標	社会人・医療人として、社会において活動していくにあたり必要とされる「読む」「書く」「話す」「聞く」に関わる国語（日本語）の知識を修得する。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	文字と表記① 漢字・かな・カナ ひらがなと漢字の使い分け	講義	日本語に用いられる文字種と表記にはどのようなものがあるかを考えておく。
2	文字と表記② カタカナの働き 、（テン）と。（マル）	講義	日本語に用いられる文字種と表記にはどのようなものがあるかを考えておく。
3	和語・漢語・外来語① 日本語における漢字	講義	日本語における語種にはどのようなものがあるかを考えておく。
4	和語・漢語・外来語② 日本語における和語・漢語・外来語	講義	日本語における語種にはどのようなものがあるかを考えておく。
5	読む① まとまり（パラグラフ）を読む 読んだ後の要約	講義	まとまりの単位（パラグラフ）とはどのようなものであるかを考えておく。
6	読む② まとまり（パラグラフ）を読み、実際に要約する	演習	まとまりの単位（パラグラフ）とはどのようなものであるかを考えておく。
7	読む③ つながりを読む	講義	日本語においてどのような接続語があるかを考えておく。
8	読む④ 接続表現の練習	演習	日本語においてどのような接続語があるかを考えておく。
9	論理的な文章を組み立てる① 要素をつなぐ 論理的に展開する	講義	ある事柄を説明する時などに、自分ならどのように文章を組み立てるかを考えておく。
10	論理的な文章を組み立てる② 助詞「は」と「が」	講義	ある事柄を説明する時などに、自分ならどのように文章を組み立てるかを考えておく。
11	書く① 目的に応じた文章の種類	講義	目的に応じどのような文章の種類があり、内容はどのように違うかを考えておく。
12	書く② 事実と意見	講義	目的に応じどのような文章の種類があり、内容はどのように違うかを考えておく。
13	書く③ 「起承転結」型 「逆三角形」型	講義	新聞記事ではどのような書き方がなされているか確認しておく。
14	正しい推論の仕方 趣旨を支える推論の方法	講義	推論とは何か、概要をつかんでおく。

15	推論のタイプ 推論の種々のタイプについて	講義	推論とは何か、概要をつかんでおく。
16	レポートを書く① テーマ・タイトル 問題意識と論点整理	講義	自分がこれまで書いたレポートがどのようなものであったかを思い出しておく。
17	レポートを書く② 調べる 考察する	講義	自分がこれまで書いたレポートがどのようなものであったかを思い出しておく。
18	レポートを書く③ レポートに用いる文章表現の練習	演習	自分がこれまで書いたレポートがどのようなものであったかを思い出しておく。
19	文章の添削① 自己添削について	講義	自分がこれまで書いたレポートがどのようなものであったかを思い出しておく。
20	文章の添削② 添削・修正の練習	演習	自分がこれまで書いたレポートがどのようなものであったかを思い出しておく。
21	敬語① 敬語表現の基本	講義	自分が普段用いている敬語はどのようなものであるかを考えておく。
22	敬語② 敬語表現の応用（状況に応じた敬語表現）	講義	自分が普段用いている敬語はどのようなものであるかを考えておく。
23	敬語③ 種々の敬語表現の問題演習	演習	自分が普段用いている敬語はどのようなものであるかを考えておく。
24	書簡と電子メール① 手紙や電子メールの書き方	講義	自分が普段用いる手紙やメールがどのようなものであるかを考えておく。
25	書簡と電子メール② 実際に手紙文を作成する	演習	自分が普段用いる手紙やメールがどのようなものであるかを考えておく。
26	書簡と電子メール③ 実際に電子メールの文面を作成する	演習	自分が普段用いる手紙やメールがどのようなものであるかを考えておく。
27	話し言葉① 書き言葉との使い分け	講義	自分が普段使用している話し言葉がどのようなものであるかを考えておく。
28	話し言葉② 種々の話し言葉に関する問題演習	演習	自分が普段使用している話し言葉がどのようなものであるかを考えておく。
29	変わりゆく日本語 時代とともに変わりゆく現代日本語の動向の概観	講義	自分と年齢の離れた者との会話がかみ合わなかったような場面を考えておく。
30	まとめ 種々の文章（読解）問題の供覧	講義	これまでの授業内容の振り返りをしておく。

授業外学習の指示	事前学習としては、「授業の進め方・留意点」に記載の各回の内容を実施しておく。 事後学習としては、各回の講義資料等を用い、復習をしておく。
----------	---

成績評価の方法	「授業方法」に演習と記載されている回の成果物により評価する。（評価割合 100%）
---------	---

使用テキスト 参考文献 他	教科書 特に指定しない。（配布する資料を用いて講義を行う） 参考書 「大学生のための日本語の基礎―入門編―」（帝塚山大学出版会） 「日本語を書くトレーニング（第2版）」（ひつじ書房） 「日本語を話すトレーニング」（ひつじ書房）
------------------	--

専門基礎分野

人体（歯・口腔を除く。）の
構造と機能

授業要項詳細

科目名	解剖学	科目分類	専門基礎分野
担当教員	井出 吉昭・石束 叡	授業形態	講義
対象学年	1 年次	開講時期	前期
単位/時間	2 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	解剖学の教育は生命の尊さを認識させ、人体の基本形態を理解させるとともに各器官の機能および病態の発現機序など他の基礎教科および臨床の教科を学習するための基礎知識を深めることにある。また頭頸部のみならず全身の構造に関する相互関係を理解する。
科目の到達目標	歯科衛生士過程の教育において、教養科目から基礎科目への登竜門である解剖学講義を通して、歯科臨床科目を学ぶための基本となる人体諸器官の構造、機能について理解する為、系統的に習得する。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	解剖学総論	講義	・休まずに出席すること。 ・積極的に授業に参加すること。
2	骨学①（脊柱の骨）	講義	
3	骨学②（上肢の骨）	講義	
4	骨学③（下肢の骨）	講義	
5	筋学総論、頸部の筋	講義	
6	上肢、体幹の筋学	講義	
7	下肢の筋学	講義	
8	心臓、全身の動脈	講義	
9	全身の静脈、リンパ	講義	
10	脳、脊髄	講義	
11	全身の神経学	講義	
12	内臓学総論	講義	
13	全身の内臓学	講義	
14	頭部内臓学	講義	
15	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	授業範囲の事前学習、事後学修を必ず行うこと。
----------	------------------------

成績評価の方法	終講試験にて評価する。
---------	-------------

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 解剖学・組織発生学・生理学」（医歯薬出版株式会社） 「口腔顎顔面解剖ノート 第2版」（学建書院）
------------------	--

授業要項詳細

科目名	生理学	科目分類	専門基礎分野
担当教員	田崎 雅和	授業形態	講義
対象学年	1 年次	開講時期	前期
単位/時間	2 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	人体解剖学は人体の動作に関する骨と筋、思考やその行動・動作に関する神経系、全身の栄養や代謝産物の仲介をなす体液、またその働きや各臓器系の構造とその関連性を理解し、解剖学を通して人体の基礎を学び、系統的な生体の構造を理解する。
科目の到達目標	一般目標は人体の構造を器官別に各器官系を学び、その関連性を学習する。 行動目標は器官系の構造・形態を理解し説明できる。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	循環器系 1. 血液（成分、機能、血液凝固、血液型）	講義	血液の機能を学ぶ。
2	循環器系 2. 心臓の位置と形態 3. 心臓の構造 4. 心臓の血管	講義	心臓の構造を学ぶ。
3	循環器系 5. 動脈系 6. 静脈系 7. リンパ系 8. 特殊な循環器系	講義	動脈、静脈、リンパ管の相違を学ぶ。
4	循環器系 9. 心収縮 10. 心電図	講義	心臓の自動能を学ぶ。
5	呼吸器系 1. 呼吸器の構造	講義	呼吸器と呼吸筋を学ぶ。
6	呼吸器系 2. ガス交換 3. 呼吸調節	講義	ガス交換のシステムを学ぶ。
7	排泄系 1. 腎臓の構造	講義	腎臓の機能を学ぶ。
8	排泄系 2. 尿の性質 3. 腎臓の機能	講義	体液量の調節機構を学ぶ。
9	消化器系 1. 消化器系の構造	講義	消化管の構造を学ぶ。
10	消化器系 2. 消化器系の生理	講義	消化と吸収のシステムを学ぶ。
11	体温 1. 体熱の生産 2. 体熱の放散 3. 体温の調節（発汗） 4. 体温調節中枢	講義	体温の調節機構を学ぶ。
12	内分泌 1. 内分泌とは 2. 視床下部 3. 下垂体	講義	内分泌臓器を学ぶ。
13	内分泌 4. 甲状腺 5. 上皮小体 6. 膵臓 7. 副腎 8. その他	講義	ホルモンの作用を学ぶ。

1 4	生殖 1. 生殖機能 2. 性周期 3. 受精と妊娠 4. 分娩と乳汁分泌	講義	性ホルモンの作用を学ぶ。
1 5	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	練習問題の正答肢と誤答肢の理由を理解する。
----------	-----------------------

成績評価の方法	終講試験（筆記）による形態的評価と授業態度により総合的に評価する。
---------	-----------------------------------

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 解剖学・組織発生学・生理学」（医歯薬出版株式会社）
------------------	--------------------------------------

専門基礎分野

歯・口腔の構造と機能

授業要項詳細

科目名	口腔解剖学	科目分類	専門基礎分野
担当教員	井出 吉昭・石束 叡	授業形態	講義
対象学年	1 年次	開講時期	後期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	摂食、咀嚼、嚥下、呼吸、発音などを行う場である口腔の知識を理解する。特に系統的に解剖学を学び、口腔における機能を解剖学的な知識をもって説明できるようになり、臨床科目を学ぶ上で基盤をつくる。
科目の到達目標	頭頸部の骨学、筋学、脈管学、神経学、口腔内臓学、摂食・嚥下基礎機能について理解する。 さらに講義で得た知識を総合的に立体的な相互位置関係などを習得する。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	口腔解剖学総論	講義	・休まずに出席すること。 ・積極的に授業に参加すること。
2	頭部骨学総論	講義	
3	上顎骨、下顎骨	講義	
4	その他の頭部骨学	講義	
5	頭頸部筋学総論	講義	
6	表情筋、咀嚼筋	講義	
7	その他の頭頸部筋学	講義	
8	頭頸部の動脈	講義	
9	頭頸部の静脈、リンパ	講義	
10	頭頸部神経学総論	講義	
11	頭頸部の神経学	講義	
12	口腔内臓学総論	講義	
13	唾液腺	講義	
14	舌の構造と機能	講義	
15	定期試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	終講範囲の事前学習、事後学修を必ず行うこと。
----------	------------------------

成績評価の方法	終講試験にて評価する。
---------	-------------

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」（医歯薬出版株式会社） 「口腔顎顔面解剖ノート 第2版」（学建書院）
------------------	--

授業要項詳細

科目名	歯の解剖学	科目分類	専門基礎分野
担当教員	井出 吉昭・石束 叡	授業形態	講義
対象学年	1 年次	開講時期	前期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	歯の一部が齲蝕で欠損した場合や抜けた場合にはその形態に応じた補綴をする必要があり、また抜歯時には歯根の形態を把握していなければならない。この「歯の解剖学」では、保存学、補綴学、口腔外科学などの臨床科目を学ぶ以前の必要な基本的な歯の形態を学習する。
科目の到達目標	歯の記号、FDI、歯式、歯の形態、歯種鑑別、発育期における歯の萌出様式と時期、そして歯列と咬合について理解する。さらに正常を理解したうえで、歯の形態異常、成長発育に関する異常について理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	歯の総論	講義	・休まずに出席すること。 ・積極的に授業に参加すること。
2	歯の総論	講義	
3	切歯	講義	
4	犬歯	講義	
5	小臼歯	講義	
6	大臼歯	講義	
7	乳歯	講義	
8	乳歯	講義	
9	歯型彫刻演習（上顎中切歯）	講義	
10	歯型彫刻演習（上顎中切歯）	講義	
11	歯型彫刻演習（上顎大臼歯）	講義	
12	歯型彫刻演習（上顎大臼歯）	講義	
13	歯列弓、咬合	講義	
14	歯の異常	講義	
15	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	授業範囲の事前学習、事後学修を必ず行うこと。
----------	------------------------

成績評価の方法	終講試験にて評価する。
---------	-------------

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」（医歯薬出版株式会社） 「口腔顎顔面解剖ノート 第2版」（学建書院）
------------------	--

授業要項詳細

科目名	口腔生理学	科目分類	専門基礎分野
担当教員	田崎 雅和	授業形態	講義
対象学年	1 年次	開講時期	後期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	口腔、顎顔面領域の臓器や組織の生理的機能についての知識を得る。口腔、顎顔面領域の恒常性（ホメオスタシス）を維持するために、口腔、顎顔面領域における動物性機能と植物性機能との調節機構により口腔器官系を調節、維持している基本的な知識を学び、口腔、顎顔面領域の生理的機能と調節機構を理解する。
科目の到達目標	一般目標は動物性機能の基礎知識をもとに口腔で生じる生命現象の機構を論理的に説明できる。 行動目標は口腔器官系の機能および下顎運動、咀嚼、吸啜、嚥下、唾液腺・唾液の機能、口腔感覚、味覚、嗅覚、発声・発音を理解し説明できる。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	細胞 1. ミトコンドリア 2. 静止（膜）電位と活動電位	講義	細胞の電気現象を学ぶ。
2	神経細胞 1. 神経の構造 2. 神経の機能	講義	興奮伝導を学ぶ。
3	末梢神経系 1. 神経系の分類 2. 脊髄神経と脳神経	講義	神経の分類とそれぞれの機能を学ぶ。
4	中枢神経系 1. 中枢神経の構造と機能	講義	中枢神経の機能局在を学ぶ。
5	中枢神経系 1. 自律神経 2. 反射 3. シナプス	講義	自律神経の機能と反射機構を学ぶ。
6	筋細胞 1. 筋の構造	講義	筋組織と神経支配様式を学ぶ。
7	筋細胞 1. 興奮—収縮関連 2. 収縮様式 3. 疲労	講義	筋収縮を学ぶ。
8	口腔感覚 1. 体性感覚（歯、歯根膜、口腔粘膜感覚） 2. 痛覚の特徴	講義	口腔感覚の特徴と痛覚の特徴を学ぶ。
9	特殊感覚 1. 味覚 2. 嗅覚、視覚、聴覚、平衡感覚	講義	味覚と味覚障害について学ぶ。
10	下顎位 1. 下顎位、咬合、咀嚼 2. 下顎運動	講義	咀嚼筋と下顎運動の関連を学ぶ。
11	顎反射 1. 筋紡錘の感覚 2. 閉口反射：下顎張反射、歯根膜閉口筋反射、閉口反射	講義	下顎の反射機構を学ぶ。
12	摂食嚥下 1. 吸啜、嘔吐 2. 嚥下反射	講義	嚥下の機構を学ぶ。

1 3	唾液 1. 唾液成分と神経支配 2. 唾液分泌機序 3. 唾液の働き	講義	唾液分泌機構を学ぶ。
1 4	発音 1. 発生機構、音声と言語音 2. 歯・口腔と発音との関連、パラトグラム（口蓋図）	講義	発声と発音を学ぶ。
1 5	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	練習問題の正答肢と誤答肢の理由を理解する。
----------	-----------------------

成績評価の方法	終講試験（筆記）による形成的評価と授業態度により総合的に評価する。
---------	-----------------------------------

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 口腔解剖学・口腔組織学・口腔生理学」（医歯薬出版株式会社）
------------------	--

授業要項詳細

科目名	組織・発生学	科目分類	専門基礎分野
担当教員	山 美喜子	授業形態	講義
対象学年	1 年次	開講時期	前期
単位/時間	2 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	全身と口腔領域の臓器・器官が、細胞の配列と、細胞が産生する物質で構成されること、それらが受精後どのような過程で形成されていくのかを解説する。 上記の知識と歯科衛生士の臨床との関連について具体例を挙げて解説する。
科目の到達目標	1. 細胞の構造と働き、上皮組織と非上皮組織の違いを理解する。 2. 身体、特に歯と歯周組織の構造と、その形成過程（発生）について理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	細胞の構造と働き①	講義	項目ごとに国試形式の問題演習を行う。
2	細胞の構造と働き②	講義	
3	上皮組織と非上皮組織（支持組織）	講義	
4	遺伝子と染色体	講義	
5	生殖細胞の発生、受精と着床	講義	
6	胚葉の形成	講義	
7	胎児の成長・発育	講義	
8	歯の構造①	講義	
9	歯の構造②	講義	
10	歯周組織の構造①	講義	
11	歯周組織の構造②	講義	
12	顔面と口腔の発生	講義	
13	歯と歯周組織の発生①	講義	
14	歯と歯周組織の発生②	講義	
15	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	終講試験資料（出題形式、重要項目を指示）の配布
----------	-------------------------

成績評価の方法	終講試験にて評価する。
---------	-------------

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 解剖学・組織発生学・生理学」（医歯薬出版株式会社） 「歯科衛生学シリーズ 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」（医歯薬出版株式会社）
------------------	---

専門基礎分野

疾病の成り立ち 及び
回復過程の促進

授業要項詳細

科目名	臨床医学概論	科目分類	専門基礎分野
担当教員	柴野 莊一	授業形態	講義
対象学年	2 年次	開講時期	前期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	ヒトの心身機能と身体機能および種々の疾患や障害の概要を学習する。
科目の到達目標	本科目は歯科衛生士を目指す者を対象とした科目であるため、歯科衛生士として業務を行う際に遭遇すると思われる医学的事象の理解を目指し、より専門性の高い領域へ進む基礎となるようにする。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	医学の基本 ・医学の概念 ・医学の領域 医学の歴史 ・医学の誕生 ・医学の展開 ・生物科学の創始と進展	講義	今回の授業テーマやそれに関係する用語などで不明なものを明らかにしておく。 今回の授業内容や配布資料等を用いて、知識の整理や不明点の解消をしておく。
2	病気の基本 ・病気の概念 ・病気の分類 ・病気の主要症状 ・病理学総論	講義	今回の授業テーマやそれに関係する用語などで不明なものを明らかにしておく。 今回の授業内容や配布資料等を用いて、知識の整理や不明点の解消をしておく。
3	病気の診断 ・診断学総論 ・診断学の基本 ・診断学各論 ・病理診断	講義	今回の授業テーマやそれに関係する用語などで不明なものを明らかにしておく。 今回の授業内容や配布資料等を用いて、知識の整理や不明点の解消をしておく。
4	病気の治療及び予防 ・治療学総論 ・治療学各論 ・病気の予防	講義	今回の授業テーマやそれに関係する用語などで不明なものを明らかにしておく。 今回の授業内容や配布資料等を用いて、知識の整理や不明点の解消をしておく。
5	心身・身体機能の概要と疾患① ・骨、関節、筋肉系 ・血液系 ・循環器系	講義	今回の授業テーマやそれに関係する用語などで不明なものを明らかにしておく。 今回の授業内容や配布資料等を用いて、知識の整理や不明点の解消をしておく。
6	心身・身体機能の概要と疾患② ・呼吸器系 ・消化器系	講義	今回の授業テーマやそれに関係する用語などで不明なものを明らかにしておく。 今回の授業内容や配布資料等を用いて、知識の整理や不明点の解消をしておく。
7	中間試験（あるいはそれに相当する課題）を授業内に実施する。	中間試験	中間試験前までの授業内容のうち、特に重要であると授業中に示した内容について確認しておく。

8	採点済の第7回実施の中間試験（あるいはそれに相当する課題）を返却し、解説する。 また、重要事項等の再確認も行う。	講義	中間試験で間違えたり解答できなかった問題を中心に、正解とその理由等を確認しておく。
9	心身・身体機能の概要と疾患③ ・内分泌代謝系 ・神経系 ・感覚器系	講義	今回の授業テーマやそれに関係する用語などで不明なものを明らかにしておく。 今回の授業内容や配布資料等を用いて、知識の整理や不明点の解消をしておく。
10	障害の概要① ・生活習慣病 ・視聴覚障害 ・内部障害	講義	今回の授業テーマやそれに関係する用語などで不明なものを明らかにしておく。 今回の授業内容や配布資料等を用いて、知識の整理や不明点の解消をしておく。
11	障害の概要② ・悪性新生物 ・終末期医療と緩和ケア（前半）	講義	今回の授業テーマやそれに関係する用語などで不明なものを明らかにしておく。 今回の授業内容や配布資料等を用いて、知識の整理や不明点の解消をしておく。
12	障害の概要③ ・終末期医療と緩和ケア（後半）	講義	今回の授業テーマやそれに関係する用語などで不明なものを明らかにしておく。 今回の授業内容や配布資料等を用いて、知識の整理や不明点の解消をしておく。
13	障害の概要④ ・知的障害 ・精神障害	講義	今回の授業テーマやそれに関係する用語などで不明なものを明らかにしておく。 今回の授業内容や配布資料等を用いて、知識の整理や不明点の解消をしておく。
14	期末試験（あるいはそれに相当する課題）を授業内に実施する。	期末試験	中間試験後から期末試験前までの授業内容のうち、特に重要であると授業中に示した内容について確認しておく。
15	採点済の第14回実施の期末試験（あるいはそれに相当する課題）を返却し、解説する。 また、重要事項等の再確認も行う。	講義	期末試験で間違えたり解答できなかった問題を中心に、正解とその理由等を確認しておく。

授業外学習の指示	各授業回とも「授業の進め方・留意点」に記載。
----------	------------------------

成績評価の方法	中間試験（あるいはそれに相当する課題）50%、期末試験（あるいはそれに相当する課題）50%の合計100%で評価する。
---------	--

使用テキスト 参考文献 他	教科書は指定せず、配布資料を用いて授業を実施する。 参考書としては、網羅的に各種疾患の概要・診断・治療等をエビデンスとともに示しているものとして「今日の治療指針 2026年版（ポケット判）」2026年、医学書院（ISBN：978-4260062473）がある。
------------------	---

授業要項詳細

科目名	病理学・口腔病理学	科目分類	専門基礎分野
担当教員	山 美喜子	授業形態	講義
対象学年	1 年次	開講時期	後期
単位/時間	2 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	全身と口腔領域の疾病・症状の発現の仕組みについて解説する。 病理学と歯科衛生士の臨床との関連について具体例を挙げて解説する。
科目の到達目標	1. 病理学的用語の意味を理解する。 2. 疾病・症状が発現する仕組みについて理解する。 3. 病理学の歯科衛生士の臨床との関連について理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	病理学とは 遺伝性疾患 染色体異常	講義	項目ごとに国試形式の問題演習を行う。
2	循環障害（血液循環障害）	講義	
3	循環障害（浮腫の成因） 代謝障害（糖尿病①）	講義	
4	代謝障害（糖尿病②）	講義	
5	細胞死 増殖と修復（再生、肉芽組織）	講義	
6	炎症とは（炎症における循環障害）	講義	
7	炎症の分類 免疫細胞（種類と働き）	講義	
8	抗体（種類と働き） アレルギー（分類）	講義	
9	腫瘍（異型性、良性と悪性） う蝕（発生機序）	講義	
10	象牙質・歯髄複合体（構造・機能とその異常）	講義	
11	口腔粘膜（構造・機能とその異常）	講義	
12	口腔領域の嚢胞（歯原性・非歯原性）	講義	
13	口腔領域の腫瘍（歯原性・非歯原性） 口腔癌	講義	
14	唾液腺の病変	講義	
15	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	終講試験資料（出題形式、重要項目を指示）の配布
----------	-------------------------

成績評価の方法	終講試験にて評価する。
---------	-------------

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 病理学・口腔病理学」（医歯薬出版株式会社）
------------------	----------------------------------

授業要項詳細

科目名	生化学・口腔生化学	科目分類	専門基礎分野
担当教員	橋本 由美子	授業形態	講義
対象学年	1 年次	開講時期	前期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	生化学では、生体に存在する化学物質とそれらがどのように生体を構成しているか等、基礎的な事項について学び、体内での化学反応という側面から分子レベルで生命現象を学ぶ。 口腔生化学においては、歯・歯周組織・唾液・プラークなどの構造や成分について学び、特に歯・歯周病について生化学的に学ぶ。
科目の到達目標	生化学：三大栄養素の種類と役割を理解し、その消化吸収と体内での分解課程、エネルギー生成課程が理解できる。 口腔生化学：口腔は食物の入口であり、口腔の健康維持を指導するために、歯・歯周組織・唾液・プラークなどについて、構造や機能について理解できる。 また、歯のように食物と直接関係する口腔疾患が存在することが理解できる。 さらには、歯周病に関連する疾患があることが理解できる。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	生化学分野 1 章 元素記号・酸塩基・結合手・官能基など (基礎知識の確認など) (1) 細胞の役割 - 細胞の構造 - 核・細胞小器官の構造と働き (タンパク質合成の場所など) - 細胞膜の構造と輸送形態	講義	PowerPointを用いた講義を行う。 講義中にノートを取り、まとめておくこと。 質問などについてはその都度あるいは次回の冒頭で共有し解説を行う。 また、教本以外に資料を使用することがある。 必要に応じて確認問題を実施し、双方向授業として無作為に解答および質問をする。
2	(2) 生体における水 - 水の役割 - 水分量の調節、1日の水の出入り (3) 生体構成成分と栄養素 - 糖質の構造と種類 - 単糖、オリゴ糖（二糖）、多糖の構造と種類	講義	PowerPointの要点についてノートを取り、まとめておくこと。 確認問題を実施し、双方向授業として無作為に解答および質問をする。
3	- 脂質の構造と種類 - 必須脂肪酸の種類 - 飽和脂肪酸・不飽和脂肪酸の構造と種類 - 細胞膜の構造 (能動輸送など) - コレステロールの役割	講義	必要に応じて前回のフィードバックを行う。 PowerPointの要点についてノートを取り、まとめておくこと。
4	- タンパク質の構造と役割 - アミノ酸の種類と必須アミノ酸 - タンパク質の構造と種類および役割 (コラーゲンなど)	講義	PowerPointの要点についてノートを取り、まとめておくこと。 確認問題を実施し、双方向授業として無作為に解答および質問をする。

5	・ビタミンの種類と補酵素としての役割 水溶性ビタミンと脂溶性ビタミンの種類と機能 欠乏症・過剰症（ビタミンA、D等） ・ミネラル（無機質） 多量元素と微量元素の種類と機能	講義	必要に応じて前回のフィードバックを行う。 PowerPointの要点についてノートを取り、 まとめておくこと。
6	2章 （1）消化と吸収 三大栄養素の消化吸収 （2）酸素の運搬と二酸化炭素の排出 （3）代謝 代謝とは何か 3章 糖質と脂質の代謝 ・糖質代謝 解糖系①	講義	PowerPointの要点についてノートを取り、 まとめておくこと。 確認問題を実施し、双方向授業として無作為に 解答および質問をする。
7	解糖系② クエン酸回路、電子伝達系（ATPの生成など）、ペントースリン酸回路	講義	必要に応じて前回のフィードバックを行う。 PowerPointの要点についてノートを取り、 まとめておくこと。
8	・脂肪酸の代謝（β酸化）	講義	PowerPointの要点についてノートを取り、 まとめておくこと。 確認問題を実施し、双方向授業として無作為に 解答および質問をする。
9	・タンパク質代謝、アミノ基転移反応、 脱アミノ反応 ・タンパク質の合成（遺伝）	講義	必要に応じて前回のフィードバックを行う。 PowerPointの要点についてノートを取り、 まとめておくこと。
10	口腔生化学分野 1章 歯と歯周組織の生化学 （1）歯と歯周組織 （2）結合組織 コラーゲン、エラスチン、プロテオグリカンなどの構造と機能	講義	PowerPointの要点についてノートを取り、 まとめておくこと。 確認問題を実施し、双方向授業として無作為に 解答および質問をする。
11	（3）歯 歯の組成、無機成分、ヒドロキシアパタイトなど	講義	必要に応じて前回のフィードバックを行う。 PowerPointの要点についてノートを取り、 まとめておくこと。
12	2章 硬組織の生化学 （1）血清中のカルシウムとリン酸 （2）石灰化の仕組み	講義	PowerPointの要点についてノートを取り、 まとめておくこと。 確認問題を実施し、双方向授業として無作為に 解答および質問をする。
13	3章 唾液の生化学 （1）唾液の組成と機能	講義	必要に応じて前回のフィードバックを行う。 PowerPointの要点についてノートを取り、 まとめておくこと。

14	4章 プラークの生化学 プラークの種類、う蝕、う蝕予防法など 歯周病と関連する疾患	講義	PowerPointの要点についてノートを取り、 まとめておくこと。 確認問題を実施し、双方向授業として無作為に 解答および質問をする。 全体のまとめの講義を行う。
15	終講試験と解説講義	終講試験 解説	試験を実施後、問題についての解説を行う。

授業外学習の指示	予習は10分程度、教科書を読んでくる。復習としては15分程度ノートの整理や各単元の確認問題について理解をする。 確認問題は1コマまたは2コマに1問程度行う。
----------	---

成績評価の方法	形成的評価：各単元の終了後に確認問題を実施するとともに無作為に解答させる。 総括的评价：終講試験（100%）にて評価する。
---------	--

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 生化学・口腔生化学」（医歯薬出版株式会社）
------------------	--

授業要項詳細

科目名	微生物学・口腔微生物学	科目分類	専門基礎分野
担当教員	齋藤 真規	授業形態	講義
対象学年	1 年次	開講時期	後期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	微生物学とは、肉眼では見ることのできない微生物によって生じる「感染症」の成り立ちを知る学問である。講義では医学領域で重要な病原微生物および宿主の防御能力（免疫力）について学ぶ。さらに、口腔二大疾患である齲蝕と歯周病に関連する病原微生物について学び、歯科衛生士にとって必要な知識を習得することを目標とする。
科目の到達目標	1. 感染と発症を説明できる。 2. 微生物の形態学的特徴と基本的性状を説明できる。 3. 感染症と感染経路について説明できる。 4. 滅菌と消毒を説明できる。 5. 化学療法を説明できる。 6. 免疫（自然免疫・獲得免疫）を説明できる。 7. アレルギーと自己免疫疾患を説明できる。 8. 口腔微生物叢を説明できる。 9. 齲蝕原性細菌を説明できる。 10. 歯周病原細菌を説明できる。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	微生物学総論（歴史・感染と発症・微生物の種類）	講義	
2	微生物学各論① 細菌学総論 細菌学各論①（グラム陽性球菌・桿菌）	講義	
3	微生物学各論② 細菌学各論②（グラム陰性球菌・桿菌）	講義	
4	微生物学各論③ 細菌学各論③（特殊細菌）	講義	
5	ウイルス総論・各論①	講義	
6	ウイルス各論②	講義	
7	中間試験 微生物学各論④（真菌・原虫・プリオン）	中間試験	試験範囲：第1回目～第6回目
8	滅菌・消毒・化学療法	講義	
9	免疫学①（免疫担当細胞・自然免疫）	講義	
10	免疫学②（獲得免疫）	講義	
11	免疫学③（アレルギー）	講義	
12	口腔微生物学①（口腔微生物叢）	講義	
13	口腔微生物学②（齲蝕の細菌学）	講義	
14	口腔微生物学③（歯周病の細菌学）	講義	
15	終講試験および解説講義	終講試験 解説	試験範囲：第7回目～第14回目

授業外学習の指示	教科書の講義内容に該当する範囲を熟読すること。
成績評価の方法	中間試験（５０点満点）および終講試験（５０点満点）の合算で評価する。 なお、再試験の範囲は講義内容全体とする。
使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 微生物学」（医歯薬出版株式会社）

授業要項詳細

科目名	薬理学・歯科薬理学	科目分類	専門基礎分野
担当教員	田村 幸彦	授業形態	講義
対象学年	1 年次	開講時期	後期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	医療従事者として医薬品の薬理作用を理解し、歯科臨床で汎用される薬物を安全かつ効果的に活用するために必要な基礎知識を修得する。
科目の到達目標	薬の作用機序、薬物動態および中枢・末梢神経系作用薬、呼吸器・循環器系作用薬、抗炎症薬、病原微生物作用薬や歯科薬剤の種類や特徴とその薬理作用などについて理解し概説できる。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	薬理学総論①（薬物の作用機序など）	講義	・関連配布資料と教科書を併用して授業を進める。 ・積極的に授業へ参加し、授業内容が理解できない時は質問すること。
2	薬理学総論②（薬物動態など）	講義	
3	薬理学総論③（薬理作用に影響する因子など）	講義	
4	薬理学総論④（副作用、医薬品の剤形など）	講義	
5	薬理学総論⑤（医薬品医療機器等法など）	講義	
6	ビタミン剤・ホルモン（糖尿病治療薬など）	講義	
7	末梢神経系作用薬（自律神経系作用薬など）	講義	
8	中枢神経系作用薬（全身麻酔薬など）	講義	
9	循環器系作用薬、呼吸器系作用薬	講義	
10	消化器系作用薬、止血薬、血液凝固阻止薬	講義	
11	悪性腫瘍治療薬、代謝性疾患治療薬	講義	
12	抗炎症薬（NSAIDsなど）、鎮痛薬、局所麻酔薬	講義	
13	抗感染症薬、消毒薬	講義	
14	漢方薬、歯科薬剤	講義	
15	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	事前にすでに学習した他の関連教科の復習をしておくことにより、より一層理解を深めることが可能となる。
----------	---

成績評価の方法	レポート、出席状況、授業態度などを加味し終講試験にて総合的に評価する。
---------	-------------------------------------

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 薬理学 第2版」（医歯薬出版株式会社） 参考文献：今日の治療薬（南江堂）
------------------	--

専門基礎分野

歯・口腔の健康と予防に関わる
人間と社会の仕組み

授業要項詳細

科目名	口腔衛生学	科目分類	専門基礎分野
担当教員	村松 康子	授業形態	講義
対象学年	1 年次	開講時期	後期
単位/時間	2 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	個人と集団に対する健康障害を予防するために、健康を左右する環境衛生の重要性を理解し、歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みに関する基本的知識を修得する。
科目の到達目標	歯・口腔の健康に関わる社会の仕組み、また、私たちを取り囲む社会環境を理解し、健康とライフスタイルの関係を説明できる。そして、歯・口腔のみならず全身の健康の関係および、歯・口腔の形成および発育・発達とその異常と変化・機能や唾液の作用を理解し説明できる。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	口腔衛生の疫学 我が国の健康と環境	講義	- すべての授業において、最初に到達目標を提示する。 - 授業中は、それを意識して、その時間に理解する気持ちで臨むこと。 - 板書が多いのでしっかりとメモをとること。 - 予習および復習をしっかりと行うこと。
2	感染症の概念・分類・種類・動向 歯・口腔の健康と予防① 口腔清掃	講義	
3	歯・口腔の健康と予防② 口腔清掃	講義	
4	歯・口腔の健康と予防③ う蝕の予防	講義	
5	歯・口腔の健康と予防④ う蝕の予防	講義	
6	歯・口腔の健康と予防⑤ フッ化物	講義	
7	歯・口腔の健康と予防⑥ フッ化物	講義	
8	歯・口腔の健康と予防⑦ フッ化物	講義	
9	歯・口腔の健康と予防⑧ 歯周病の予防	講義	
10	歯・口腔の健康と予防⑨ 歯周病の予防	講義	
11	歯・口腔の健康と予防⑩ その他の疾患・異常の予防	講義	
12	歯・口腔の健康と予防⑪ その他の疾患・異常の予防	講義	
13	歯・口腔の健康と予防⑫ まとめ	講義	
14	口腔衛生学の総まとめ	講義	
15	終講試験と解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	予習および復習をしっかりと行うこと。
----------	--------------------

成績評価の方法	終講試験とレポートにて評価する。
---------	------------------

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 保健生態学」（医歯薬出版株式会社）
------------------	------------------------------

授業要項詳細

科目名	衛生学・公衆衛生学	科目分類	専門基礎分野
担当教員	有川 量崇・鈴木 陽香・長島 輝明	授業形態	講義
対象学年	1 年次	開講時期	後期
単位/時間	2 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	人間の健康問題と環境との相互関係を研究し、それを人間集団の現象としてとらえ、そのレベルから疾病の予防、健康の増進などを考え、実行していくことを学ぶ。口腔の保健問題は常に全身的、全人的観点から考え、扱っていく。
科目の到達目標	口腔領域に入る前に、口腔は全身の一部であり、身体他の部分と無関係に存在していないということを学び、習得することを目的としている。特に公衆衛生の最優先（Public Health）、疾患の発生予防の重要性（Primary Prevention）および人々の健康づくりの支援（Health Promotion）が基本コンセプトであることをよく理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	衛生・公衆衛生序論	講義	【衛生・保健・健康の概念について】 衛生学・公衆衛生学の概略、歴史、社会環境の変化、国民生活、健康の概略、生活習慣と健康、健康保持増進対策
2	地域保健・公衆衛生	講義	【公衆衛生と地域保健活動について】 地域社会と地域保健、地域保健の動向、地域社会とコミュニティオーガニゼーション、ヘルスプロモーション、地域保健活動の実際について
3	母子保健	講義	【母子保健について】 母子保健の意義と対象、母子保健の動向と関連法規、母性と乳幼児の保健活動、母子保健の今後の動向について
4	学校保健	講義	【学校保健について】 学校保健の意義と分野、保健教育、保健管理、組織活動について
5	成人・老人保健	講義	【成人保健と老人保健について】 成人・老人保健の意義、成人・老人保健の組織、関係法規と保健活動、要介護高齢者対策と介護予防事業について
6	産業保健	講義	【産業保健について】 産業保健の概念、職業性疾病、産業保健管理、産業保健活動
7	精神保健・国際保健	講義	【精神保健と国際保健について】 精神保健、開発途上国における健康問題、国際化に伴う我が国の保健医療問題と国際協力について
8	中間試験	中間試験	【第1回～第7回の内容について習得する】 第1回～第7回の授業内容を具体的に説明できる。

9	健康と環境①	講義	【環境保健について】 環境の概念、空気、水と健康、放射能と健康、 住居、衣服と健康
10	健康と環境②	講義	【環境保健について】 地域環境の変化と健康、公害と廃棄物処理
11	人口	講義	【人口統計・保健統計について】 人口静態統計の指標、国勢調査と我が国の人口 構造、人口動態統計の指標に、出生と死亡の動 向、平均寿命・平均余命、社会環境と人口の変 動
12	疫学	講義	【疫学について】 疫学分析、健康障害の発生要因、疫学の方法、 疫学の定期および概要、疫学の方法、スクリー ニングについて
13	感染症	講義	【感染症の予防について】 感染症の成り立ち、感染症の予防、主な感染症 の動向について
14	食品と健康	講義	【食品衛生と国民栄養について】 国民栄養の現状、日本人の食事摂取基準、食品 の表示、食品の安全性、食品の安全性確保対策 について
15	終講試験および解説講義	終講試験 解説	【衛生学・公衆衛生学の重要性について習得す る】 衛生学・公衆衛生学の重要性について具体的に 説明できる。

授業外学習の指示	予習時間、および復習時間ともに30分行うこと。
成績評価の方法	終講試験（100点満点）を重視するが、授業で課された提出物も評価の対象とする。 最終評価が60点に達しない場合には、追再試験期間に再試験を行う。
使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 保健生態学」（医歯薬出版株式会社）

授業要項詳細

科目名	歯科衛生統計学	科目分類	専門基礎分野
担当教員	村松 康子	授業形態	講義
対象学年	2 年次	開講時期	後期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	いろいろな口腔保健に関する指標を理解し、衛生統計学の目標である「現状把握」「原因追及」「対策立案」「効果判定」のための統計手法を修得する。
科目の到達目標	集団の保健に関する問題を解決するための統計学的方法論理解し修得する。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	衛生統計の意義と目標	講義	- すべての授業において、最初に到達目標を提示する。 - 授業中は、それを意識して、その時間に理解する気持ちで臨むこと。 - 板書が多いのでしっかりとメモをとること。 - 予習および復習をしっかりと行うこと。
2	資料の作成および指標と尺度	講義	
3	口腔診査の疫学的意義 う蝕の検出基準と指数	講義	
4	歯周疾患の検出基準と指数	講義	
5	口腔清掃状態および歯石の検出基準と指数	講義	
6	歯のフッ素症 酸蝕症の検出基準と指標 その他の歯科保健指標	講義	
7	データの特性	講義	
8	母集団と標本	講義	
9	誤差	講義	
10	スクーリングと診断	講義	
11	記述統計	講義	
12	相関関係	講義	
13	推定と検定	講義	
14	医療情報の取扱いと国家統計調査	講義	
15	終講試験と解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	予習および復習をしっかりと行うこと。
----------	--------------------

成績評価の方法	終講試験とレポートにて評価する。
---------	------------------

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 保健生態学」（医歯薬出版株式会社）
------------------	------------------------------

授業要項詳細

科目名	衛生行政・社会福祉学	科目分類	専門基礎分野
担当教員	有川 量崇・鈴木 陽香・長島 輝明	授業形態	講義
対象学年	3 年次	開講時期	前期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	各関係法規に基づいた歯科衛生士業務として、地域保健活動、産業保健などの保健活動、介護保険、さらに行政の保健事業の立案・実施に関する事項を学び、歯科衛生士業務が、単に医療機関における診療補助・保健指導だけでなく、幅広い社会活動が可能であることを理解するとともに、卒業後の進路における歯科衛生士の具体的な活動分野を知ってほしい。
科目の到達目標	歯科衛生士として必要な法・制度を学び、医療人として社会における役割と責任について理解し、修得することを目的とする。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	衛生行政・社会福祉概論	講義	法治国家における法・制度の成り立ちと重要性に触れ、衛生行政の目的を理解し、その組織と所掌内容を把握する。
2	歯科関連法規 歯科衛生士法	講義	歯科衛生士法の経緯・概要について理解する。身分法としての、免許取得より実務に至るまでを、細則を含め理解する。
3	歯科関連法規 歯科医師法、歯科技工士法	講義	歯科医師法、歯科技工士法の詳細について修得し、歯科衛生士法との関係を明確に理解する。
4	保健師助産師看護師法および関連医療従事者身分法	講義	保健師助産師看護師法および関連医療従事者身分法について学修し、歯科衛生士との業務連携について理解する。
5	医療法	講義	医療の理念と共に医療施設を規定した医療法について理解する。
6	医療経済	講義	わが国の国民医療費と医療経済を理解する。
7	高齢者の医療の確保に関する法律	講義	高齢者の医療の確保に関する法律の概要と、特定健康診査、特定保健指導について理解する。
8	歯科口腔保健の推進に関する法律および 8020運動 第1回～第6回 復習小テスト	講義	歯科口腔保健の推進に関する法律の概要、また、8020運動との関わりを含め歯科衛生士の地域歯科保健活動について理解する。 復習小テスト
9	母子保健法および母子保健の行政組織	講義	母子保健活動に最も重要となる母子保健法を詳細に把握し、行政での保健活動がどのように変わってきたか、その状況を理解する。
10	学校保健安全法、労働安全衛生法	講義	学校保健活動に最も重要となる学校保健安全法を詳細に把握し理解する 労働保健活動に最も重要となる労働安全衛生法を詳細に把握し理解する
11	地域保健法、健康増進法、食育基本法	講義	地域歯科保健活動に最も重要となる地域保健法を詳細に把握し、各市町村での保健活動がどのように変わってきたか、その状況を理解する。 食育基本法の概要と歯科衛生士の栄養指導にど

			のように関わっていくのか理解する
1 2	医療保険制度	講義	国民皆保険であるわが国の社会保険制度の概要と仕組みを理解する。
1 3	社会福祉① 介護保険	講義	社会福祉制度の概要と介護保険制度について理解する。
1 4	社会福祉② 児童福祉、障害者福祉など	講義	児童福祉や障害者福祉等の社会福祉制度、障害者総合支援法について理解する。
1 5	終講試験および解説講義	終講試験 解説	衛生行政や社会福祉の重要性について学ぶ。

授業外学習の指示	予習および復習ともに30分行うこと。
----------	--------------------

成績評価の方法	終講試験（100点満点）を重視するが、授業で課された提出物も評価の対象とする。
---------	---

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 保健・医療・福祉の制度」（医歯薬出版株式会社）
------------------	------------------------------------

授業要項詳細

科目名	栄養学	科目分類	専門基礎分野
担当教員	有川 量崇・鈴木 陽香・長島 輝明	授業形態	講義
対象学年	2 年次	開講時期	前期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	人の一生における各々のライフステージ別の特性を知り、適切な栄養管理の知識を身に付けることを目標とする。また、健康づくりにおける食生活改善の取り組みについて、歯科衛生士として果たす役割を理解する。
科目の到達目標	栄養学に関する正しい知識と基礎を学び、身に付ける。生化学で学んだ知識や考え方を応用し、栄養学を理解する。食生活と健康について理解し、歯科衛生士として果たすべき役割を理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	食生活の評価	講義	- 食生活と健康との関係について理解し、食品の種類・量・料理等に関するセンスを養う。 - 食事記録の意義・方法等を修得し栄養成分による分類を修得する。
2	栄養摂取の現状	講義	現代人の食物摂取における栄養上の問題点を知り、健康の維持と推進のために必要とされる栄養の概略を説明できる。
3	栄養素の働き①	講義	脂質の栄養： コレステロール代謝の調節、脂質の量と質の評価
4	栄養素の働き②	講義	ビタミンの栄養： ビタミンの構造、代謝と栄養学的機能、欠乏症について ミネラルの栄養： ミネラルの分類と栄養学的機能について
5	栄養素の働き③	講義	糖質の栄養： 血糖値の維持、食物繊維の生理効果、他の栄養素との関係
6	栄養素の働き④	講義	タンパク質の栄養： 必須アミノ酸、タンパク質の栄養価、他の栄養素との関係
7	栄養の基礎－食生活と栄養－	講義	健康の維持のために、栄養の知識を学ぶ意義を知る。
8	栄養管理の基礎－食事摂取基準－	講義	- 食事摂取基準とは何かを説明できる。 - 個人の推定エネルギー必要量の求め方と摂取量の評価方法を説明できる。
9	食生活と健康①	講義	- 食で病気を防ぎ健康増進につながることを知り、健康づくりのための食事計画の進め方について学修する。 - 食事バランスガイドを説明できる。

10	食生活と健康②	講義	食で病気を防ぎ健康増進につながることを知り、食品表示法、食品添加物、保健機能食品、食品の3つの機能性（栄養、嗜好・感覚、生体調節）について学修する。
11	人の成長・発達と加齢について ライフステージと栄養管理① ―妊娠期・授乳期・新生児期―	講義	- ライフステージ別に食生活と健康との関係について理解し、人の成長・発達の概念、成長や発達・加齢に伴う身体的変化、精神的変化、栄養管理について説明できる。 - 妊娠、出産、授乳に伴う身体特性や栄養特性、栄養管理について - 新生児期の特性や栄養アセスメント、病態・疾患と栄養ケアについて
12	ライフステージと栄養管理② ―乳児期・幼児期・学童期―	講義	- 乳児期の特性や栄養アセスメント、病態・疾患と栄養ケアについて - 発育や運動が著しい幼児期の特性について - 学童期の身体特性や栄養特性について
13	ライフステージと栄養管理③ ―思春期・青年期―	講義	思春期・青年期の第二性徴、ホルモン、日常生活と栄養摂取について
14	ライフステージと栄養管理④ ―成人期・高齢期―	講義	- 成人期の栄養摂取の目的と生活習慣病予防について - 高齢期の特性や在宅・施設におけるケアプログラムについて
15	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	予習時間、および復習時間ともに30分行うこと。
成績評価の方法	終講試験（100点満点）を重視するが、授業で課された提出物も評価の対象とする。
使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 生化学・口腔生化学」（医歯薬出版株式会社） 「歯科衛生学シリーズ 栄養学」（医歯薬出版株式会社）

專門分野

歯科衛生士概論

授業要項詳細

科目名	歯科衛生士概論	科目分類	専門分野
担当教員	仙波 久美・眞田 咲弥	授業形態	講義・演習
対象学年	1 年次	開講時期	前期
単位/時間	2 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	歯科衛生士の業務内容、倫理観、法律との関わり、社会全体での役割を総合的に学習する。 その上で、歯科衛生業務を実践するために必要なコミュニケーション技術を養う。
科目の到達目標	1. 歯科衛生の変遷と歯科衛生業務に必要な専門知識・技術の概要および基本事項を理解する。 2. 歯科衛生士の主要業務や歯科衛生過程の各場面で必要となる専門的知識と技術の特徴を知る。 3. 歯科衛生士としての職業倫理・行動規範を理解するとともに対人援助の基本的事項を理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	歯科衛生学とは 歯科衛生士法と歯科衛生士業務	講義	・休まずに出席すること。 ・提出物は期限を守ること。 ・積極的に授業に参加すること。
2	歯科衛生士の歴史 歯科衛生活動のための倫理論	講義	
3	実践行動学①（グループワーク）	演習	
4	実践行動学②（グループワーク）	演習	
5	実践行動学③（グループワーク）	演習	
6	実践行動学④（グループワーク）	演習	
7	実践行動学⑤（グループワーク）	演習	
8	実践行動学⑥（グループワーク）	演習	
9	KJ法①（グループワーク）	演習	
10	KJ法②（グループワーク）	演習	
11	KJ法③（グループワーク）	演習	
12	KJ法④（グループワーク）	演習	
13	歯科衛生士と医療倫理 歯科衛生士の活動と組織	講義	
14	歯科衛生士とかわる専門職 海外における歯科衛生士	講義	
15	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	講義については、教科書の該当する範囲を熟読すること。また復習をしっかりと行うこと。 グループワークは積極的に参加し、個人ワークについても指示通り行うこと。
----------	--

成績評価の方法	終講試験、授業態度、グループワーク参加態度、提出物にて総合的に評価する。
---------	--------------------------------------

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学総論」（医歯薬出版株式会社） 「実践行動学」（実践行動学研究所）
------------------	---

専門分野

臨床歯科医学

授業要項詳細

科目名	歯科臨床概論	科目分類	専門分野
担当教員	田島 聖士	授業形態	講義
対象学年	1 年次	開講時期	後期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	歯科臨床の概要とその種類を総合的に学習する。
科目の到達目標	1. 歯科臨床に関わる様々な歯科衛生業務を理解する。 2. 各種歯科臨床の診療内容、および専門知識を理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	歯科臨床とは	講義	・休まずに出席すること ・提出物は期限を守ること ・積極的に授業に参加すること
2	歯科診療所の紹介	講義	
3	歯科診療における安全管理	講義	
4	歯科診療と歯科衛生業務	講義	
5	保険医療機関での実務	講義	
6	診査・検査と治療計画	講義	
7	小児歯科	講義	
8	歯科矯正	講義	
9	口腔外科	講義	
10	保存修復	講義	
11	歯内療法	講義	
12	歯周治療	講義	
13	歯科補綴	講義	
14	インプラント治療	講義	
15	終講試験と解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	予習時間、および復習時間ともに30分以上行うこと。
----------	---------------------------

成績評価の方法	終講試験、授業態度、提出物にて総合評価する。
---------	------------------------

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 歯科衛生士のための歯科臨床概論 第2版」（医歯薬出版株式会社）
------------------	--

授業要項詳細

科目名	保存修復・歯内療法学	科目分類	専門分野
担当教員	平山 聡司	授業形態	講義
対象学年	1 年次	開講時期	後期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	歯科衛生業務を行うために必要な歯の硬組織疾患と歯内療法疾患の種類、症状、診断法および治療法を理解することを目的とする。
科目の到達目標	1. 歯の硬組織疾患の種類とその原因について説明できる。 2. 修復処置に必要な器材、材料の使用方法について説明できる。 3. 保存修復・歯内療法疾患の診断に必要な検査法や前準備について説明できる。 4. 修復法の種類（直接修復・間接修復）と特徴および術式を説明できる。 5. 歯の変色の原因と漂白方法について説明できる。 6. 象牙質知覚過敏症の原因とその処置方法について説明できる。 7. 歯髄保存療法の分類と処置に使用する薬物について説明できる。 8. 歯内療法の対象となる歯髄炎、根尖性歯周炎について説明できる。 9. 歯髄除去療法（抜髄根管）について説明できる。 10. 根尖性歯周組織疾患について説明できる。 11. 根管拡大・根管充填処置の術式、使用器具、使用薬剤について説明できる。 12. 歯内療法外科処置の分類について説明できる。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	歯科保存学概論 歯の硬組織疾患（う蝕）の原因・特徴	講義	・休まずにきちんと授業に参加すること。 ・教科書やノートに必ずメモを取ること。 ・その日の振り返りのため、毎回の講義終了後にポスト試験（5分間）を行う。
2	歯の硬組織疾患（歯の損耗）の原因と特徴	講義	
3	歯硬組織の検査 修復前準備	講義	
4	窩洞の構成と名称、分類と窩洞形態の原則 歯の切削器械・器具の種類と特徴 う蝕の処置	講義	
5	Minimal Intervention Dentistry(MID) の意義 直接修復法（コンポジットレジン修復）の特徴 と術式および使用器具	講義	
6	直接修復法（グラスアイオノマーセメント修復）の特徴と術式および使用器具 非侵襲的修復技法<ART>	講義	
7	間接修復法の種類と特徴および術式 合着用セメント	講義	
8	補修修復 歯の変色の原因と処置法（歯の漂白）	講義	
9	中間試験および解説講義	中間試験 解説	
10	象牙質知覚過敏症の症状と原因、処置法 歯内療法の検査と診断 歯髄疾患の分類と症状および処置方針	講義	

1 1	歯髄保存療法（覆髄法、IPC法） 歯髄除去療法	講義	
1 2	根尖性歯周組織疾患の概念と治療法	講義	
1 3	根管治療、根管充填 根管治療に用いる器材の種類と使用法 根管未完成歯の処置	講義	
1 4	外科的歯内療法の種類・適応症とその処置法 歯内療法における偶発事故とその防止策 失活歯の漂白	講義	
1 5	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	講義受講後の復習とポスト試験問題の見直しをしっかりと行うこと。
----------	---------------------------------

成績評価の方法	中間試験（60%）、修了試験（40%）として評価し、ポスト試験の結果を加算する。
---------	--

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学」（医歯薬出版株式会社） 「歯科衛生学シリーズ 診療補助論」（医歯薬出版株式会社） 「歯科衛生学シリーズ 歯科材料」（医歯薬出版株式会社）
------------------	---

授業要項詳細

科目名	歯科補綴学	科目分類	専門分野
担当教員	井上 正安・石井 優貴・吉田 一央	授業形態	講義
対象学年	2 年次	開講時期	前期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	歯の実質欠損、喪失による咀嚼機能の治療法となる歯科補綴学の知識を習得する。
科目の到達目標	歯の実質欠損、喪失による咀嚼機能の治療法となる歯科補綴学の知識を習得し、説明することができる。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	歯科補綴治療の概要	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 補綴とは、意義と目的、欠損に伴う生理的变化
2	補綴歯科治療の方法と補綴装置	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 クラウン、ブリッジ、全部床義歯、部分床義歯、インプラント、特殊な口腔内装置を用いる治療、補綴歯科治療における歯科衛生士の役割
3	補綴歯科治療の基礎知識	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 ・歯列と咬合、補綴学的基準平面 ・口腔の機能、顎関節の構造、機能と病態
4	補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割 歯科補綴治療における検査	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 ①医療面接 ②口腔内の検査 ③画像検査 ④咬合と顎口腔機能の検査 到達度チェックテスト
5	クラウン・ブリッジ治療①	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 クラウン・ブリッジ治療の概要
6	クラウン・ブリッジ治療②	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 クラウン・ブリッジ治療の流れと診療の補助
7	クラウン・ブリッジ治療③	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 クラウン・ブリッジ治療に関連する併発症とその対応 到達度チェックテスト
8	有床義歯治療①	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 全部床義歯治療の概要、全部床義歯治療の流れと診療の補助
9	有床義歯治療②	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 全部床義歯の治療に関連する併発症とその対応
10	有床義歯治療③	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 部分床義歯治療の概要
11	有床義歯治療④	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 部分床義歯治療の流れと診療の補助、部分床義歯治療に関連する併発症とその対応 到達度チェックテスト
12	インプラント治療①	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 インプラント治療の概要 インプラント治療の流れと診療の補助①

13	インプラント治療②	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 インプラント治療の流れと診療の圃場② 上下無歯顎治療に対するインプラント治療 インプラント治療に関連する併発症とその対応
14	特殊な口腔内装置を用いる治療 補綴歯科治療における器材の管理	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 顎顔面補綴治療、構音・嚥下機能の補助治療、 顎関節症とブラキシズムの治療、スポーツ外傷 の予防、睡眠時無呼吸症候群の歯科的治療 器具・器材別滅菌、消毒、洗浄保管 歯科技工士との連携
15	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	教科書、授業プリントをもとに予習・復習を必ず行うこと。
----------	-----------------------------

成績評価の方法	到達度チェックテストならびに、終講試験にて評価する。
---------	----------------------------

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学」（医歯薬出版株式会社） 参考文献 「歯科衛生士 書き込み式 学習ノート ④臨床科目編〈下〉」（医歯薬出版株式会社） 「歯科衛生士国家試験 直前マスター③ 臨床科目」（医歯薬出版株式会社）
------------------	---

授業要項詳細

科目名	歯周病学	科目分類	専門分野
担当教員	小方 頼昌・高井 瑞穂・ 齋藤 由未・武田 萌	授業形態	講義
対象学年	2年次	開講時期	前期
単位/時間	1単位／30時間	回数	15回

授業科目の概要	口腔機能回復治療（修復・補綴治療、咬合治療、矯正治療、インプラント治療）を行う場合は、歯周治療が終了した健康な歯周組織でなければ治療は成功しない。また、安定した咬合機能を営むためには、歯周組織が健康である必要がある。歯周治療終了後、回復した口腔機能を維持するためには、患者の自己管理を中心としたサポータティブペリオドンタルセラピーまたはメインテナンスを継続して行う必要がある。
科目の到達目標	歯周病学では、正常歯周組織を理解した後、歯周病の病因、臨床像を正しく理解し、その治療法を学ぶ。また、予防、サポータティブセラピー、メインテナンスの違いを理解し、歯周治療を総合的に学ぶことを目的とする。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	総論、歯周組織の構造と機能	講義	歯周病と歯周治療、正常歯周組織の構造と機能について学ぶ。
2	歯周病の疫学、疫学指数、歯周病の罹患状況、歯周病の予防	講義	歯周病の罹患状況を理解する。疫学的評価法と歯周病の予防について学ぶ。
3	歯周病検査と診断（1） 歯周病検査、診断、歯周病の分類	講義	歯周病検査の項目、検査結果による診断、歯周病の分類を学ぶ。
4	歯周病検査と診断（2） 歯周病の病態、歯肉歯周病変、臨床所見	講義	歯周病の病態、臨床所見、歯肉病変、歯周炎、歯肉退縮、歯肉歯周病変について学ぶ。
5	歯周病の原因（1） プラークとバイオフィルム、歯周病原細菌、歯石	講義	プラークとバイオフィルム、歯周病原細菌、歯石の分類、形成機序と好発部位について学ぶ。
6	歯周病の原因（2） 歯周病のリスクファクター、歯周医学、歯周病と全身疾患	講義	歯周病のリスクファクター、歯周病と全身疾患の関係について学ぶ。
7	医療面接、治療計画の立案、歯周治療の流れ、緊急処置	講義	医療面接、治療計画の立案と歯周治療の流れ、緊急処置について学ぶ。
8	歯周基本治療（1） 歯周基本治療の種類	講義	歯周基本治療の種類、歯周基本治療で行う項目について学ぶ。
9	歯周基本治療（2） プラークコントロール、ブラッシング法、補助清掃用具	講義	プラークコントロール、ブラッシング法、補助清掃用具、口腔衛生指導について学ぶ。
10	歯周基本治療（3） スケーラーの種類、スケーリング・ルートプレーニング（SRP）、シャープニング	講義	スケーリング・ルートプレーニング（SRP）で使用する器具、スケーリングとルートプレーニングの違い、シャープニングを学ぶ。
11	歯周外科治療（1） 組織付着療法、切除療法、歯周形成手術	講義	歯周外科治療の種類と術式、組織付着療法、切除療法、歯周形成手術の適応と治療について学ぶ。

1 2	歯周外科治療（２） 使用器具、滅菌、前準備、後片付け	講義	歯周外科治療で使用する器具と使用法、歯周外科治療の前準備、滅菌、ドレーピング、後片付けについて学ぶ。
1 3	歯周外科治療（３） 歯周組織再生療法、根分岐部病変、歯内歯周病変	講義	歯周組織再生療法、根分岐部病変、歯内歯周病変の原因と治療について学ぶ。
1 4	咬合性外傷、咬合調整、知覚過敏、暫間固定、口腔機能回復治療、メンテナンス、SPT、歯周病重症化予防治療	講義	咬合性外傷の原因と治療、知覚過敏処置、暫間固定、歯内歯周病変の分類、口腔機能回復治療、メンテナンス、SPT、歯周病重症化予防治療の実施項目について学ぶ。
1 5	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	予習、および復習ともに３０分行うこと。
----------	---------------------

成績評価の方法	終講試験により評価する。
---------	--------------

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 歯周病学」（医歯薬出版株式会社）
------------------	-----------------------------

授業要項詳細

科目名	口腔外科学	科目分類	専門分野
担当教員	小宮 正道	授業形態	講義
対象学年	2 年次	開講時期	前期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	歯科衛生業務を行うために必要な顎・口腔領域に生じる各種疾患の特徴と症状、診断法および治療法を理解する。
科目の到達目標	口腔外科処置の診療補助・介補ができるようになるために口腔外科で扱う疾患や手術を理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	口腔外科総論、顎・口腔領域に生じる各種疾患を分類できるようになるため学習する。	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。顎・口腔領域に生じる各種疾患を説明できる。
2	先天異常と発育異常の症状と治療法を説明できるようになるため学習する。	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。口腔の先天異常、先天異常の種類、口腔の発育異常を説明できる。
3	歯の外傷、歯槽骨骨折、顎骨骨折および軟組織損傷の症状と治療法を説明できるようになるため学習する。	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。歯の外傷、歯槽骨骨折、顎骨骨折および軟組織損傷を説明できる。
4	各種口腔粘膜疾患の種類と症状および治療法を説明できるようになるため学習する。	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。各種口腔粘膜疾患の種類と症状および治療法を説明できる。
5	歯槽部、顎骨および周囲組織の炎症の原因、感染経路と症状および治療法を説明できるようになるため学習する。	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。歯槽部、顎骨および周囲組織の炎症の原因、感染経路と症状および治療法を説明できる。
6	顎骨および口腔軟組織に発生する嚢胞の種類と症状および治療法を説明できるようになるため学習する。	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。顎骨および口腔軟組織に発生する嚢胞の種類と症状および治療法を説明できる。
7	顎・口腔領域の良性腫瘍、悪性腫瘍、腫瘍類似疾患の種類と症状および治療法を説明できるようになるため学習する。	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。顎・口腔領域の良性腫瘍、悪性腫瘍、腫瘍類似疾患の種類と症状および治療法を説明できる。
8	中間試験および解説講義	中間試験	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。中間試験 1 までの講義内容について説明できる。
9	顎関節疾患の症状と治療法を説明できるようになるため学習する。	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。顎関節疾患の症状と治療法を説明できる。
10	唾液腺疾患の症状と治療法を説明できるようになるため学習する。	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。唾液腺疾患の症状と治療法を説明できる。
11	顎・口腔領域の神経疾患の症状を説明できるようになるため学習する。	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。顎・口腔領域の神経疾患の症状を説明できる。
12	口腔に症状を現す血液疾患の特徴を説明できるようになるため学習する。	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。口腔に症状を現す血液疾患の特徴を説明できる。

13	抜歯・口腔外科手術の手順を説明できるようになるため学習する。 抜歯の適応と禁忌と抜歯・口腔外科手術の術中・術後の局所的偶発症および術後の注意を説明できるようになるため学習する。	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 抜歯・口腔外科手術の手順を説明できる。抜歯の適応と禁忌と抜歯・口腔外科手術の術中・術後の局所的偶発症および術後の注意を説明できる。
14	顎口腔領域の周術期の口腔衛生管理を説明できるようになるため学習する。	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 顎口腔領域の周術期の口腔衛生管理を説明できる。
15	終講試験および解説講義	終講試験 解説	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 終講試験までの講義内容について説明できる。

授業外学習の指示	予習時間：30分、予習内容：授業内容の項目について教科書を熟読する。 復習時間：30分、復習内容：講義内容と教科書を照らし合わせて確認する。
----------	--

成績評価の方法	評価は、中間試験1と終講試験をもって判定する。中間試験（50％）は第1回から第7回まで、終講試験（50％）は第9回から第14回までの範囲。尚、中間試験における再試験は行わない。ただし、最終評価が60点に達しない場合には、全範囲における追再試験を行う場合もある。
---------	---

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学」（医歯薬出版株式会社）
-----------------------------	---

授業要項詳細

科目名	小児歯科学	科目分類	専門分野
担当教員	清水 陽子・小川 奈保	授業形態	講義
対象学年	2 年次	開講時期	前期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	小児歯科学の目的は、発育途上にある顎口腔系器官の正常な発育を見守り、これを障害する口腔疾患の早期発見に努め、その治療と予防を行うことである。その中における歯科衛生士の役割について教授する。
科目の到達目標	小児歯科診療に求められる歯科衛生士業務を実践できるようになるために、小児歯科領域の疾患、処置法、予防、診療介助についての知識を修得する。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	小児歯科学総論	講義	スライド、配布プリントを使用する。
2	心身の発育、頭蓋と顎の成長発育	講義	
3	歯の発育と異常、乳歯・幼若永久歯の特徴とう蝕	講義	
4	歯列および咬合の発育と異常	講義	
5	小児歯科診療の基本	講義	
6	小児の歯科的対応	講義	
7	小児の歯冠修復	講義	
8	小児の歯内療法	講義	
9	小児の歯周疾患、軟組織疾患	講義	
10	小児の外科的処置、外傷の処置、児童虐待	講義	
11	咬合誘導	講義	
12	口腔衛生指導、食生活指導	講義	
13	フッ化物の応用、シーラント、定期検診	講義	
14	治療時に注意すべき疾患	講義	
15	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	講義前学習項目：使用テキストの授業内容の章の予習を行うこと。 講義後学習項目：講義プリント内容の復習を行うこと。
----------	---

成績評価の方法	終講試験、出席状況および受講態度等により総合的に評価する。
---------	-------------------------------

使用テキスト 参考文献 他	使用テキスト 「歯科衛生士講座 小児歯科学」（永末書店） 参考文献 「歯科衛生士講座 小児歯科学 第2版」（永末書店）
------------------	--

授業要項詳細

科目名	歯科矯正学	科目分類	専門分野
担当教員	中嶋 亮・津川 智美・佐本 博・吉野 智一	授業形態	講義
対象学年	2 年次	開講時期	前期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	歯科衛生士に必要な歯科矯正学の基礎的および臨床的内容を理解する。
科目の到達目標	1. 顔面および歯・歯列の成長発育とその評価を説明できる。 2. 成長発育に伴う正常咬合（乳歯列から永久歯列）を説明できる。 3. 不正咬合の原因と種類を列挙できる。 4. 不正咬合による障害と矯正治療の目的を説明できる。 5. 矯正治療と歯の移動時の生体反応を説明できる。 6. 矯正装置の種類、構造および機能を説明できる。 7. 矯正治療に用いる器材とその取扱いを説明できる。 8. 矯正治療前、治療中および保定期間における口腔健康管理法を説明できる。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	歯科矯正学概論	講義	【授業の一般目標】 歯科矯正学の概略を理解する。 【行動目標（SBOs）】 臨床経験に基づき以下の内容を説明する。 ・ 歯科矯正学がどのような分野かを説明できる。 ・ 歯科矯正治療がどのような治療かを説明できる。 ・ 矯正歯科治療の目的を説明できる。 ・ 歯科矯正治療での歯科衛生士の役割を説明できる。 ・ 健康保険が適応可能な矯正歯科治療を説明できる。
2	成長・発育	講義	【授業の一般目標】 成長・発育について理解する。 【行動目標（SBOs）】 臨床経験に基づき以下の内容を説明する。 ・ Scammonの成長発育に関する4種類のパターンを説明できる。 ・ 鼻上顎複合体と下顎の成長の特徴を説明できる。 ・ 歯列と咬合の発育に関して説明できる。 ・ 吸啜に関する反射を説明できる。 ・ 乳児型嚥下と成人型嚥下を説明できる。 ・ 嚥下機能と咀嚼機能の発達を説明できる。

3	咬合	講義	【授業の一般目標】 正常咬合・不正咬合および不正咬合による障害を理解する。 【行動目標（SBOs）】 臨床経験に基づき以下の内容を説明する。 ・下顎位と咬合位について説明できる。 ・正常咬合が成立し保持される条件を列挙できる。 ・不正咬合の表現法と分類を説明できる。 ・不正咬合の原因を列挙できる。 ・不正咬合の予防を説明できる。 ・不正咬合による障害を説明できる。
4	矯正診断	講義	【授業の一般目標】 矯正診断に必要な検査・分析を理解する。 【行動目標（SBOs）】 臨床経験に基づき以下の内容を説明する。 ・矯正歯科治療の流れを説明できる。 ・矯正歯科に必要な検査を説明できる。 ・形態検査、機能検査について説明できる。 ・模型分析の意義と目的を説明できる。 ・頭部エックス線規格写真分析の意義と目的を説明できる。 ・インフォームドコンセントの意義と目的を説明できる。
5	中間試験および解説講義① 第1回から第4回までの範囲から出題。	中間試験①	【授業の一般目標】 第1回から第4回までの講義内容理解度の確認。 【行動目標（SBOs）】 【準備学習項目・時間】 第1回から第4回までの範囲の復習。
6	矯正歯科治療の実際①	講義	【授業の一般目標】 矯正歯科治療の実際を理解する。 【行動目標（SBOs）】 臨床経験に基づき以下の内容を説明する。 ・不正咬合の種類を列挙できる。 ・不正咬合の特徴を説明できる。 ・矯正歯科治療の目的と流れを説明できる。 ・矯正歯科治療での歯科衛生士の役割を説明できる。

7	矯正歯科治療の実際②	講義	【授業の一般目標】 矯正歯科治療の実際を理解する。 【行動目標（SBOs）】 臨床経験に基づき以下の内容を説明する。 - 不正咬合の種類を列挙できる。 - 不正咬合の特徴を説明できる。 - 矯正歯科治療の目的と流れを説明できる。 - 矯正歯科治療での歯科衛生士の役割を説明できる。
8	矯正力と顎整形力	講義	【授業の一般目標】 矯正力と顎整形力について理解する。 【行動目標（SBOs）】 臨床経験に基づき以下の内容を説明する。 - 器械的矯正力と機能的矯正力について説明できる。 - 顎整形力について説明できる。 - さまざまな歯に移動様式を説明できる。 - 歯の移動に伴う圧迫側と牽引側の組織変化を説明できる。 - 固定の程度とその種類を説明できる。
9	矯正歯科用の材料・器具	講義	【授業の一般目標】 矯正歯科用の材料・器具について理解する。 【行動目標（SBOs）】 臨床経験に基づき以下の内容を説明する。 - 矯正歯科治療に用いる材料・器具を列挙できる。 - 矯正歯科治療に用いる材料・器具の構造と用途を説明できる。
10	矯正装置と矯正歯科治療①	講義	【授業の一般目標】 矯正装置と矯正歯科治療について理解する。 【行動目標（SBOs）】 臨床経験に基づき以下の内容を説明する。 - 矯正装置の種類を列挙できる。 - 矯正装置の構造と使用目的と適用時期を説明できる。 - 可撤式矯正装置の装着方法を指導できる。 - 固定式矯正装置の装着方法を説明できる。 - 矯正装置の注意事項を説明できる。

1 1	矯正装置と矯正歯科治療②	講義	【授業の一般目標】 矯正装置と矯正歯科治療について理解する。 【行動目標（SBOs）】 臨床経験に基づき以下の内容を説明する。 ・矯正装置の種類を列挙できる。 ・矯正装置の構造と使用目的と適用時期を説明できる。 ・可撤式矯正装置の装着方法を指導できる。 ・固定式矯正装置の装着方法を説明できる。 ・矯正装置の注意事項を説明できる。
1 2	中間試験および解説講義② 第6回から第10回までの範囲から出題。	中間試験②	【授業の一般目標】 第6回から第10回までの講義内容理解度の確認。 【行動目標（SBOs）】 【準備学習項目・時間】 第6回から第10回までの範囲の復習。 【授業の一般目標】 矯正歯科における口腔衛生管理について理解する。 【行動目標（SBOs）】 臨床経験に基づき以下の内容を説明する。 ・矯正歯科治療における歯科衛生アセスメントについて説明できる。 ・矯正治療中のブラークコントロールについて説明できる。 ・セルフケアについて説明できる。 ・プロフェッショナルケアについて説明できる。 ・矯正装置の目的と注意点を説明できる。
1 3	矯正歯科における口腔衛生管理と口腔筋機能療法	講義	【授業の一般目標】 矯正歯科治療における口腔衛生管理および口腔筋機能療法の意義を理解する。 【行動目標（SBOs）】 臨床経験に基づき以下の内容を説明する。 ・矯正治療中の口腔衛生管理の重要性 ・ブラークコントロールの方法 ・セルフケアとプロフェッショナルケアの違い ・口腔習癖が咬合へ与える影響 ・口腔筋機能療法の目的と基本的内容 ・矯正治療における歯科衛生士の役割

14	歯科矯正学 総まとめ 成長・診断・治療をつなぐ	講義	【授業の一般目標】 歯科矯正学の各単元を統合的に理解し、全体像を説明できる 【行動目標（SBOs）】 臨床経験に基づき以下の内容を説明する。 ・ 成長発育と不正咬合の関連を説明できる ・ 矯正診断の流れを説明できる ・ 矯正力による歯の移動機序を説明できる ・ 矯正装置の特徴を整理できる ・ 歯科衛生士の役割を総合的に説明できる
15	終講試験および解説講義 第1回から第14回までの範囲から出題。	終講試験 解説	【授業の一般目標】 第1回から第14回までの講義内容理解度の確認。 【行動目標（SBOs）】 【準備学習項目・時間】 第1回から第14回までの範囲の復習。

授業外学習の指示	授業毎の予習、復習を行うこと。
成績評価の方法	中間試験（2回実施で200点満点）、ならびに終講試験（100点満点）で合計300点満点とし、総合的に評価する。再試験は実施しない。
使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学」（医歯薬出版株式会社） 「新版 したのくせ」高橋 未哉子・高橋 治（クインテッセンス出版）

授業要項詳細

科目名	歯科放射線学	科目分類	専門分野
担当教員	小日向 裕太、中村 直矢	授業形態	講義
対象学年	1 年次	開講時期	後期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	歯科医業として日々行われている放射線検査がどのような位置づけにあるかを、原理的な事項から実践的な手技を含めて講義を行う。
科目の到達目標	放射線は歯科臨床において欠かすことのできない一分野であり画像機器の進歩に伴い診断における画像検査の占める割合が増えつつある。しかしながら放射線は放射線障害という問題をかかえているために放射線の利益および害を理解し、人体における放射線の生物学的影響や防護が重要となっている。これをふまえて将来歯科衛生になるにあたり、自身の役割を認識し、放射線を安全かつ有効に扱えるようになるために必要な基礎知識を習得することを目的とする。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	歯科医療と放射線	講義	・休まずに受講すること。 ・積極的に授業に参加すること。
2	エックス線とその性質	講義	
3	放射線の人体への影響	講義	
4	エックス線フィルムとデンタル画像	講義	
5	口内法エックス線検査	講義	
6	パノラマエックス線検査	講義	
7	口外法エックス線検査	講義	
8	CT	講義	
9	MRI	講義	
10	超音波検査・核医学検査	講義	
11	歯および歯周組織疾患の画像診断	講義	
12	嚢胞および腫瘍の画像診断	講義	
13	放射線防御の基本概念	講義	
14	放射線治療	講義	
15	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	使用テキスト、参考図書を用いて自学自習を行うこと。
----------	---------------------------

成績評価の方法	終講試験、出席状況および受講態度等により総合的に評価する。
---------	-------------------------------

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生士講座 歯科放射線学」（永末書店） 歯科放射線診断 teaching file Case Based Review 画像診断に強くなる 顎口腔領域の疾患
------------------	---

授業要項詳細

科目名	高齢者歯科学	科目分類	専門分野
担当教員	小宮 正道・柴野 莊一	授業形態	講義
対象学年	2 年次	開講時期	後期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	10 回

授業科目の概要	歯科衛生業務を行うために必要な高齢者の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する。
科目の到達目標	要介護者人口の増加に伴う福祉・医療費の増大が懸念されており、国民の健康問題が大きな課題である。こうした課題は地域支援によって解決されるべきものであり、地域口腔保健活動に携わる歯科衛生士として健康増進の鍵となる口腔機能の維持を担う責任がある。そのため高齢者の取り巻く社会環境を熟知しておく必要がある。地域歯科医療において高齢者のための包括的な歯科医療における課題を解決できる基本的能力を修得する。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	- 全身および口腔の加齢と老化を説明できる。 - 人口の超高齢化による社会環境の変化について説明できる。	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 - 加齢に伴う生理的变化と病的変化について説明できる。 - 老年期の社会生活機能の変化について説明できる。 - 高齢化、多死社会などの社会的環境を説明できる。 - 高齢者の関与する福祉政策について説明できる。
2	高齢者の全身疾患と口腔疾患の特徴を説明できる。	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 - 高齢者に多い疾患の定義・原因・病態について説明できる。 - 上記における歯科診療上の配慮について説明できる。
3	- 高齢者の歯科診療上の薬剤使用における配慮について説明できる。 - 易感染性である高齢者の感染予防管理の重要性について説明できる。 - 高齢者の機能と派生する行動特性を理解し、歯科診療において必要な配慮について説明できる。	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 - 高齢者の薬物動態について説明できる。 - ポリファーマシーについて説明できる。 - 高齢者における感染症の特徴を説明できる。 - 感染予防対策について説明できる。 - 高齢者の行動特性について説明できる。 - 高齢者とのコミュニケーション方法について説明できる。
4	加齢に伴う口腔機能の低下と高齢者に多く認められる口腔疾患について説明できる。	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 - 高齢者における口腔機能の特徴を説明できる。 - 高齢者にみられる口腔疾患について説明できる。
5	中間試験および解説講義	試験	臨床経験に基づき以下の内容を確認する。 中間試験①までの講義内容について説明できる。

6	高齢者の歯科治療計画を立案する知識を修得し説明できる。	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 - 高齢者の歯科治療の実際について説明できる。 - 高齢者の歯科治療計画立案の仕方について説明できる。
7	- 高齢者の口腔衛生管理の基本的事項について説明できる。 - 歯科衛生過程に基づいた高齢者の口腔衛生管理の具体的な対応について説明できる。	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 - 口腔機能と全身機能の関係性について説明できる。 - 健康増進支援での口腔衛生管理の重要性を説明できる。 - 高齢者における衛生過程について説明できる。 - 高齢者への口腔衛生管理の具体的な手法を説明できる。
8	高齢者に対する摂食嚥下リハビリテーションの重要性を理解し、具体的な手法について説明できる。	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 - 高齢者の摂食嚥下リハビリテーションの目的を説明できる。 - 上記における具体的な手法について説明できる。
9	- 地域口腔保健活動に携わるために要介護高齢者の社会環境と福祉医療について説明できる。 - 在宅患者に対する口腔機能維持について法理的な勘手から臨床を説明できる。	講義	臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 - 要介護高齢者の全身および口腔の特徴について説明できる。 - 要介護高齢者の社会福祉社会的環境について説明できる。 - 介護保険を含めた地域包括ケアについて説明できる。 - 地域連携を基にした訪問歯科診療について説明できる。
10	リハビリテーション医学と摂食嚥下① リハビリテーション リハビリテーション医学概論 摂食嚥下リハビリテーション総論	講義	柴野担当 リハビリテーションとはどのようなものであるかを、書籍やインターネット等で調べておく。
11	リハビリテーション医学と摂食嚥下② リハビリテーション リハビリテーション医学概論 摂食嚥下リハビリテーション総論	講義	柴野担当 リハビリテーションとはどのようなものであるかを、書籍やインターネット等で調べておく。
12	摂食嚥下のメカニズム① 摂食嚥下に関わる構造（解剖） 摂食嚥下に関わる機能（生理） ライフサイクルと摂食嚥下	講義	柴野担当 摂食嚥下に関わる生体の構造と機能について、また、ヒトのライフサイクルとはどのようなものかを、書籍やインターネット等で調べておく。
13	摂食嚥下のメカニズム② 摂食嚥下に関わる構造（解剖） 摂食嚥下に関わる機能（生理） ライフサイクルと摂食嚥下	講義	柴野担当 摂食嚥下に関わる生体の構造と機能について、また、ヒトのライフサイクルとはどのようなものかを、書籍やインターネット等で調べておく。

14	摂食嚥下の各種検査および評価① 情報収集・各種検査と評価	講義	柴野担当 摂食嚥下の評価に関し、必要な情報や検査にはどのようなものがあるかを書籍やインターネット等で調べておく。
15	・終講試験および解説講義	終講試験 解説	臨床経験に基づき以下の内容を確認する。 終講試験までの講義内容について説明できる。

授業外学習の指示	予習時間：60分、予習内容：授業内容について教科書を熟読する。 復習時間：60分、復習内容：授業内容を教科書と照らし合わせて確認する。
----------	--

成績評価の方法	評価は、中間試験と終講試験二より評価する。 中間試験①（50％）は第1回から第4回まで、終講試験（50％）は第6回から第9回までの範囲。尚、中間試験①における再試験は行わない。ただし、最終評価が60点に達しない場合には、全範囲における追再試験を行う場合もある。
---------	---

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学」（医歯薬出版株式会社）
------------------	-------------------------------

授業要項詳細

科目名	障害者歯科学	科目分類	専門分野
担当教員	白田 翔平	授業形態	講義
対象学年	2 年次	開講時期	後期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	医療技術の進歩などによる障害の多様化および高齢化によって、障害のある患者の歯科受診が増える昨今、歯科衛生士の業務は予防処置、診療補助、歯科保健指導に留まらず、訪問診療における多職種との連携や摂食機能療法などのリハビリテーション業務など多岐にわたる。また、超高齢社会の到来により高齢障害者歯科診療の需要も高まっている。将来、歯科衛生士として障害児者歯科診療にかかわる中で必要な医学的基礎知識や歯科診療上の配慮、障害児者歯科保健などについての概要を系統的に学習することによって障害児者の歯科診療の概念を理解し、臨床において活用できる基本的な知識を習得する。
科目の到達目標	1. 障害の概念、障害者に関する法律などについて説明できる。 2. 障害の種類、障害特性および歯科診療時の留意点を説明できる。 3. 障害児者の歯科診療における行動調整を説明できる。 4. 高齢者の加齢に伴う変化について説明できる。 5. 障害児者歯科診療における歯科衛生士の役割とリスク管理を説明できる。 6. 障害児者・高齢者の摂食嚥下障害とリハビリテーションを説明できる。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	障害者歯科への導入	講義	・障害の概念 ・障害者に関する法律 ・障害者の人口動態 ・ノーマライゼーション
2	障害と歯科医療 1	講義	・身体障害における全身および口腔内の特徴、および歯科診療時の留意点：脳性麻痺、筋ジストロフィー、脊髄損傷、感覚障害など ・知的能力障害における全身および口腔内の特徴および歯科診療時の留意点
3	障害と歯科医療 2	講義	・精神障害における全身および口腔内の特徴、および歯科診療時留意点：発達障害、てんかん、うつ病、双極性障害、統合失調症など
4	症候群と特定疾患（難病）	講義	・先天異常 ・口腔、顎顔面、頭蓋に現れる異常と疾患、および症候群の関係 ・厚生労働省指定難病 ・小児慢性特定疾患 ・医療的ケア児
5	障害者の心理・オリエンテーション	講義	・発達心理学 ・発達検査 ・障害受容 ・オリエンテーションの意義 ・Four Handed Dentistry ・歯科診療と行動調整
6	障害者歯科診療における歯科衛生士の役割とリスク管理	講義	・障害者歯科診療における医療事故 ・歯科診療場面のリスク評価と管理 ・障害者歯科での歯科衛生士の役割

7	社会における高齢者	講義	・高齢者と人口動態 ・死亡原因と寝たきり ・高齢者に関する法律と福祉 ・口腔内の加齢変化と疾患（オーラルフレイルを含む） ・低栄養のサイクル（フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム） ・口腔機能低下症
8	中途障害者、有病高齢者と歯科医療①	講義	・循環器疾患：心疾患、高血圧症 ・脳血管疾患 ・慢性疾患：糖尿病、呼吸器疾患 ・認知症
9	中途障害者、有病高齢者と歯科医療②	講義	・パーキンソン病 ・慢性関節リウマチ ・筋萎縮性側索硬化症 ・脊髄小脳変性症 ・中途障害とリハビリテーション
10	摂食嚥下リハビリテーション① 発達期の摂食嚥下リハビリテーション	講義	・食えることの意義 ・摂食嚥下機能に関わる解剖 ・摂食嚥下機能の発達 ・発達期における摂食機能障害 ・発達期における摂食嚥下リハビリテーション
11	摂食嚥下リハビリテーション② 高齢者・中途障害者の摂食嚥下リハビリテーション	講義	・5期モデル ・加齢による摂食嚥下機能の減退 ・高齢者における摂食嚥下障害 ・疾患と摂食嚥下障害 ・高齢者・中途障害者の摂食嚥下リハビリテーション
12	摂食嚥下リハビリテーション③ 摂食嚥下リハビリテーションの実際	講義	・摂食嚥下リハビリテーションの実際 ・呼吸と栄養（気管切開、胃ろう、中心静脈栄養、経鼻経管栄養）
13	発達期障害児者の口腔健康管理	講義	・障害児者における口腔管理の重要性 ・障害児者の口腔管理における歯科衛生士の役割 ・発達期障害児者の口腔保健指導のアプローチと方法
14	高齢者・中途障害者の口腔健康管理	講義	・高齢者・中途障害者における口腔管理の重要性 ・高齢者・中途障害者の口腔保健指導のアプローチと方法
15	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	授業内容に関して、予習・復習を行うこと。
----------	----------------------

成績評価の方法	終講試験の結果にて評価する。結果に応じて追再試験を行う。終講試験および追再試験の点数配分は授業担当者の担当時間に比例した配分である。
---------	--

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生士講座 障害者歯科学 第3版」(永末書店)
------------------	----------------------------

専門分野

歯科予防処置論

授業要項詳細

科目名	歯科予防処置論Ⅰ	科目分類	専門分野
担当教員	竹元 真弥	授業形態	講義
対象学年	1 年次	開講時期	前期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるための専門的な知識を修得する。 専門基礎分野の知識と関連づけながら、う蝕と歯周病の概要を知り、歯科予防処置について学ぶ。
科目の到達目標	1. 歯科予防処置の概念と内容を概説できる。 2. 歯科予防処置の法的位置づけを説明できる。 3. 歯科予防処置の範囲と業務を概説できる。 4. 歯・歯周組織と口腔の構造と機能を説明できる。 5. 口腔内の付着物・沈着物の種類と成分を説明できる。 6. プラークの形成過程と成分を説明できる。 7. 歯石の形成過程について成分を説明できる。 8. う蝕の原因と進行、予防方法を説明できる。 9. 歯周病の原因と分類、進行および予防方法を説明できる。 10. スケーラーの種類と使用目的を説明できる。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	総論	講義	・2年生以降の実習に繋がる科目なので、休まず受講すること。 ・スライドを使って授業を進めていくのでしっかりと聞き、必ずメモを取る。 ・配布プリントは、必ずまとめておき、終講試験に臨むこと。
2	口腔の基礎知識① 口腔周囲（1）	講義	
3	口腔の基礎知識② 口腔周囲（2） 歯周組織（1）	講義	
4	口腔の基礎知識③ 歯周組織（2）	講義	
5	口腔の基礎知識④ 歯冠・歯根・歯式	講義	
6	口腔の基礎知識⑤ 口腔の機能	講義	
7	付着物・沈着物	講義	
8	う蝕①	講義	
9	う蝕②	講義	
10	歯周病①	講義	
11	歯周病②	講義	
12	スケーラー①	講義	
13	スケーラー②	講義	
14	スケーラー③	講義	
15	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	授業範囲の教科書を読んでくること。 授業後、再度同じ箇所の教科書を読むこと。
----------	---

成績評価の方法	授業態度、出席状況および終講試験にて総合的に評価する。
---------	-----------------------------

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」（医歯薬出版株式会社）
------------------	--

授業要項詳細

科目名	歯科予防処置論Ⅱ	科目分類	専門分野
担当教員	竹元 真弥・加藤 由紀・川村 かれん	授業形態	講義・演習
対象学年	1 年次	開講時期	前期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	歯科衛生士として歯科予防処置はとても重要である。その中でも手用スケーラーは特に基本となる衛生士業務の一つであり、基礎が大事である。歯石除去の手技のみならず、患者さんが不快に思わないような配慮や歯牙の形態も考慮できるよう、模型実習を通じて知識と技術を習得する。
科目の到達目標	1. 安全で的確な口腔疾患予防処置を行うために必要な知識と技術を習得する。 2. シックル型スケーラーを操作できる。 3. 施術部位に適したスケーラーを選択できる。 4. 施術部位に適したポジショニングを取ることができる。 5. マキシラアングル、ヘッドローテーションについて説明できる。 6. 歯面研磨の意義を説明できる。 7. 歯面研磨ができる。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	マネキン室の使い方・ポジションについて 口腔診査①	講義・演習	・休まずに受講すること。 ・全授業演習が含まれるため、身だしなみをしっかり整えて臨むこと。 ・忘れ物をしないこと。 ・分からないときは、その場で確認をすること。 ・積極的に参加すること。 ・高価で鋭利な刃物を扱う授業となるため、丁寧かつ安全に行うこと。
2	口腔診査②	演習	
3	シックル型スケーラー① 石膏訓練棒・机上訓練	演習	
4	シックル型スケーラー② 石膏訓練棒・机上訓練	演習	
5	シックル型スケーラー③ 石膏訓練棒・机上訓練	演習	
6	シックル型スケーラー④ マネキン訓練	演習	
7	シックル型スケーラー⑤ マネキン訓練	演習	
8	シックル型スケーラー⑥ マネキン訓練	演習	
9	シックル型スケーラー⑦ マネキン訓練	演習	
10	シックル型スケーラー⑧ マネキン訓練	演習	
11	歯面研磨①	講義・演習	
12	歯面研磨②	演習	
13	シックル型スケーラー⑨ 歯面研磨③	演習	
14		演習	
15	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	模型での学習を行うこと。その際は、鋭利な刃物なので危険を伴わないように配慮すること。
----------	--

成績評価の方法	終講試験（実技試験100点満点・筆記試験100点満点）にて評価する。 その他、出席状況、授業・演習態度、身だしなみも評価に加味する。
---------	--

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」（医歯薬出版株式会社）
------------------	--

授業要項詳細

科目名	歯科予防処置論Ⅲ	科目分類	専門分野
担当教員	竹元 真弥・加藤 由紀・川村 かれん	授業形態	講義・演習
対象学年	1 年次	開講時期	後期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	歯科予防処置論Ⅱに続き、手用スケーラーを習得する。この授業では机上ではなくマネキンを使用した演習となる。器具を安全に取り扱い、適切に使用できるよう演習を通じて習得する。
科目の到達目標	1. キュレット型スケーラーを操作できる。 2. 施術部位に適したスケーラーを選択できる。 3. 施術部位に適したポジショニングを取ることができる。 4. 施術部位に適したマキシラアングル、ヘッドローテーションを取ることができる。 5. オフセットブレードを説明できる。 6. 0° 挿入ができる。 7. プローブの種類と操作方法を説明できる。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	キュレット型スケーラー① 石膏訓練棒・机上訓練	講義・演習	・休まずに受講すること。 ・全授業演習が含まれるため、身だしなみをしっかり整えて臨むこと。 ・忘れ物をしないこと。 ・分からないときは、その場で確認をすること。 ・積極的に参加すること。 ・高価で鋭利な刃物を扱う授業となるため、丁寧かつ安全に行うこと。
2	キュレット型スケーラー② 石膏訓練棒・机上訓練	講義・演習	
3	キュレット型スケーラー③ 石膏訓練棒・机上訓練	講義・演習	
4	キュレット型スケーラー④ 石膏訓練棒・机上訓練	講義・演習	
5	キュレット型スケーラー⑤ 石膏訓練棒・机上訓練	講義・演習	
6	キュレット型スケーラー⑥ 復習	演習	
7	キュレット型スケーラー⑦ 復習 プローピング準備 パーツ取り付け	演習	
8	プローピング①	講義・演習	
9	キュレット型スケーラー⑧ プローピング②	演習	
10	キュレット型スケーラー⑨ プローピング③	演習	
11	キュレット型スケーラー⑩ プローピング④	演習	
12	キュレット型スケーラー⑪ プローピング⑤	演習	
13	キュレット型スケーラー⑫ プローピング⑥	演習	
14	キュレット型スケーラー⑬ プローピング⑦	演習	
15	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	模型での学習を行うこと。その際は、鋭利な刃物なので危険を伴わないように配慮すること。
----------	--

成績評価の方法	終講試験（実技試験100点満点・筆記試験100点満点）にて評価する。 その他、出席状況、授業・演習態度、身だしなみも評価に加味する。
---------	---

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」（医歯薬出版株式会社）
------------------	--

業要項詳細

科目名	歯科予防処置論Ⅳ	科目分類	専門分野
担当教員	竹元 真弥・加藤 由紀・川村 かれん	授業形態	講義・演習
対象学年	1 年次	開講時期	後期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	歯科予防処置論Ⅱに続き、シックル型スケーラーの操作方法を習得する。この授業ではマネキンではなく患者さんを想定した相互実習となる。器具・器材を安全に取り扱い、適切に使用できるよう演習を通じて習得する。
科目の到達目標	1. 正しい姿勢で行うことができる。 2. 正しくシックル型スケーラーを操作できる。 3. 正しく歯面研磨を操作できる。 4. 患者さんの立場になって施術が出来る。 5. 分からないことがあれば自己判断せず、指示を仰ぐことができる。 6. 怪我無く、安全に施術が出来る。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	ユニット室の使い方・実習の流れ	講義	・休まずに受講すること。 ・欠席した場合は、担当教員の指示に従い補講を実施し、全て出席すること。 ・身だしなみをしっかり整えて臨むこと。 ・忘れ物をしないこと。 ・分からないときは、その場で確認をすること。 ・積極的に参加すること。 ・高価で鋭利な刃物を扱う授業となるため、丁寧かつ安全に行うこと。 ・技術の習得度によっては、相互実習を許可できないこともある。 その際は、担当教員の指示に従うこと。
2・3	相互実習① 歯面研磨	演習	
4・5	相互実習② シックル型スケーラー	演習	
6・7	相互実習③ シックル型スケーラー	演習	
8・9	相互実習④ シックル型スケーラー・歯面研磨	演習	
10・11	相互実習⑤ シックル型スケーラー・歯面研磨	演習	
12・13	相互実習⑥ シックル型スケーラー・歯面研磨	演習	
14・15	相互実習⑦ シックル型スケーラー・歯面研磨	演習	

授業外学習の指示	模型での学習を勧める。その際は、鋭利な刃物なので危険を伴わないように配慮すること。
----------	---

成績評価の方法	出席状況、授業・演習態度、提出物、身だしなみを総合的に評価する。
---------	----------------------------------

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」（医歯薬出版株式会社）
------------------	--

授業要項詳細

科目名	歯科予防処置論Ⅴ	科目分類	専門分野
担当教員	竹元 真弥・加藤 由紀・川村 かれん	授業形態	講義・演習
対象学年	2 年次	開講時期	前期
単位/時間	2 単位／60 時間	回数	30 回

授業科目の概要	歯科予防処置論Ⅲに続き、キュレット型スケーラーの操作方法を相互実習を通して習得する。器具・器材を安全に取り扱い、適切に使用できるよう演習を通じて習得する。 また、超音波スケーラー、エアースケーラー、歯面清掃器、PMTCについて、講義と演習を行う。それぞれの器具・器械を安全に取り扱い、適切に使用できるよう模型と相互実習を通じて習得する。
科目の到達目標	- 正しい姿勢で行うことができる。 - 正しくキュレット型スケーラーを操作できる。 - 超音波スケーラーの正しい知識・技術を身に付ける。 - エアースケーラーの正しい知識・技術を身に付ける。 - 歯面清掃器の正しい知識・技術を身に付ける。 - PMTCの正しい知識・技術を身に付ける。 - 患者さんの立場になって施術が出来る。 - 分からないことがあれば自己判断せず、指示を仰ぐことができる。 - 怪我無く、安全に施術が出来る。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1・2	相互実習① 歯周プローブ・歯式	演習	- 休まずに受講すること。 - 欠席した場合は、担当教員の指示に従い補講を実施し、全て出席すること。 - 身だしなみをしっかり整えて臨むこと。 - 忘れ物をしないこと。 - 毎回、目標を持って参加すること。 - 分からないときは、その場で確認をすること。 - 積極的に参加すること。 - 高価な器材を取り扱う授業となるため、丁寧かつ安全に行うこと。 - 技術の習得度によっては、相互実習を許可できないこともある。 - その際は、担当教員の指示に従うこと。
3・4	相互実習② キュレット型スケーラー	演習	
5・6	相互実習③ キュレット型スケーラー	演習	
7・8	相互実習④ キュレット型スケーラー	演習	
9・10	パワースケーラー・PMTC	講義	
11・12	模型実習① パワースケーラー	演習	
13・14	模型実習② パワースケーラー	演習	
15・16	相互実習⑤ パワースケーラー	演習	
17・18	相互実習⑥ パワースケーラー	演習	
19・20	相互実習⑦ パワースケーラー	演習	
21・22	相互実習⑧ パワースケーラー	演習	
23・24	シャープニング	講義・演習	
25・26	相互実習⑨ PMTC	演習	
27・28	相互実習⑩ PMTC	演習	
29	まとめ・試験対策	講義	
30	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	授業時間内に行った内容や注意されたことをその日の内に実習簿やノートにまとめ、振り返りを行うこと。
----------	--

成績評価の方法	終講試験（筆記試験100点満点）にて評価する。 その他、出席状況、提出物、授業・演習態度、身だしなみも評価に加味する。
---------	---

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論」（医歯薬出版株式会社）
------------------	--

授業要項詳細

科目名	歯科予防処置論Ⅵ	科目分類	専門分野
担当教員	竹元 真弥・加藤 由紀・川村 かれん	授業形態	講義・演習
対象学年	2 年次	開講時期	後期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	う蝕予防処置法の種類、フッ化物の種類・中毒量の計算、う蝕活動性試験について、講義・実習を通して知識・技術を習得していく。
科目の到達目標	1. う蝕予防処置法の種類、フッ化物の特性、う蝕活動性試験について説明できる。 2. フッ化物の歯面塗布を実施し、塗布後の説明を適切に行うことが出来る。 3. フッ化物の中毒量の計算が出来る。 4. 小窩裂溝填塞法を理解し、説明できる。 5. 小窩裂溝填塞法を安全に実施できる。 6. 小窩裂溝填塞法の術前・術後説明をしっかりと行える。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1・2	う蝕予防処置について	講義・演習	・休まずに受講すること。 ・身だしなみをしっかり整えて臨むこと。 ・忘れ物をしないこと。 ・毎回、目標を持って参加すること。 ・分からないときは、その場で確認をすること。 ・積極的に参加すること。 ・高価な器材や試薬を取り扱う授業となるため、丁寧かつ安全に行うこと。 ・技術の習得度によっては、相互実習を許可できないこともある。 ・その際は、担当教員の指示に従うこと。 ・第14回の臨床基礎実習の説明の参加は必須であり、欠席した場合は、臨床基礎実習に参加できないので注意すること。
3・4	う蝕活動性試験①	講義・演習	
5・6	う蝕活動性試験②	講義・演習	
7	フッ化物応用①	講義	
8	フッ化物応用②	講義	
9	フッ化物応用③	講義	
10・11	小窩裂溝填塞法	講義・演習	
12・13	相互実習 フッ化物応用	演習	
14	試験対策・臨床基礎実習の説明	講義	
15	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	講義の内容を把握していなければ実習には臨めないため、しっかりと復習をしておくこと。実習時間内に行った内容や注意されたことをその日の内に実習簿やノートにまとめ、振り返りを行うこと。
----------	---

成績評価の方法	終講試験（筆記試験100点満点）にて評価する。 その他、出席状況、提出物、授業・演習態度、身だしなみも評価に加味する。
---------	--

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」（医歯薬出版株式会社）
------------------	--

授業要項詳細

科目名	歯科予防処置 総合	科目分類	専門分野
担当教員	専任教員	授業形態	演習
対象学年	3年次	開講時期	前期
単位/時間	1単位／30時間	回数	15回

授業科目の概要	臨床実習に出るにあたり、今までの学内実習（相互実習）の総まとめとなる。 また、臨床実習中の器具使用の再確認や臨床実習後の最終総括となる。 卒業後、臨床の現場に出た時に即戦力となれるような歯科衛生士を目指すための実習である。
科目の到達目標	1. 1年次からの全ての科目が繋がって理解できている。 2. 回数を重ねるごとに、知識と技術が向上している。 3. 毎回ステップアップした目標を持ち実習に臨むことができる。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	相互実習①	演習	・休まずに受講すること。 ・身だしなみをしっかり整えて臨むこと。 ・忘れ物をしないこと。 ・毎回、目標を持って参加すること。 ・分からないときは、その場で聞くこと。 ・積極的に参加すること。 ・高価な器材を取り扱うため、丁寧かつ安全に行うこと。
2	相互実習②	演習	
3	相互実習③	演習	
4	相互実習④	演習	
5	相互実習⑤	演習	
6	相互実習⑥	演習	
7	相互実習⑦	演習	
8	相互実習⑧	演習	
9	相互実習⑨	演習	
10	相互実習⑩	演習	
11	相互実習⑪	演習	
12	相互実習⑫	演習	
13	相互実習⑬	演習	
14	相互実習⑭	演習	
15	相互実習⑮	演習	

授業外学習の指示	臨床実習に準じた実習簿を作成すること。 別に課題を出すこともある。提出期限を守り必ず提出すること。
----------	--

成績評価の方法	実習簿、出席状況、授業・演習態度、身だしなみにて総合的に評価する。
---------	-----------------------------------

使用テキスト 参考文献 他	配布済みの全教本
------------------	----------

専門分野

歯科保健指導論

授業要項詳細

科目名	歯科保健指導論Ⅰ	科目分類	専門分野
担当教員	眞田 咲弥・勝矢 友絵	授業形態	講義・演習
対象学年	1 年次	開講時期	前期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	歯科保健指導の意義や特性について講義を通じて学ぶ。また歯科衛生士は口腔内だけではなく全身を診なければならず、全身状態についても学習する。生活背景にも考慮した歯科保健指導ができるようになるための学習を行う。
科目の到達目標	歯科保健指導についての基礎学問的な領域を理解し、歯科保健指導に応用する。また対象者の情報を評価し、歯科衛生診断結果をもとに歯科衛生介入のためのプログラムを計画立案出来るようになる。そのために必要な、対象者の情報について収集方法を習得する。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	オリエンテーション 試験について 概論	講義	・休まずに受講すること。 ・スライドを使って授業を進めていくのでしっかりと聞き、必ずメモを取ること。 ・配布プリントは、必ずまとめておき、終講試験に臨むこと。 ・忘れ物をしないこと。 ・分からないときは、その場で聞くこと。 ・積極的に参加すること。
2	予防・健康の概念・口腔の機能について	講義	
3	保健行動支援のための基礎知識①	講義	
4	保健行動支援のための基礎知識②	講義	
5	全身状態の把握・生活機能の把握	講義	
6	歯・口腔状態の把握	講義	
7	情報収集①	講義	
8	情報収集②	講義	
9	情報収集③	講義	
10	医療面接	講義・演習	
11	KJ法①	演習	
12	KJ法②	演習	
13	口腔衛生管理①	講義	
14	口腔衛生管理②	講義	
15	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	事前に授業範囲を提示するので教科書を読んでくること。 授業後、再度同じ箇所の教科書を読むこと。
----------	--

成績評価の方法	授業態度、出席状況および終講試験にて総合的に評価する。
---------	-----------------------------

使用テキスト	「歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」（医歯薬出版株式会社）
参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 保健生態学」（医歯薬出版株式会社）

授業要項詳細

科目名	歯科保健指導論Ⅱ	科目分類	専門分野
担当教員	眞田 咲弥・勝矢 友絵	授業形態	講義・演習
対象学年	1 年次	開講時期	後期
単位/時間	2 単位／60 時間	回数	30 回

授業科目の概要	口腔衛生管理を行うために必要な知識、技術および態度を修得する。
科目の到達目標	1. 口腔衛生管理を行うための歯科衛生介入計画を立案できる。 2. 口腔衛生管理に関する清掃用具や、歯磨剤・洗口剤・保湿剤の特徴を説明できる。 3. 口腔衛生状態を説明できる。 4. 口腔清掃方法の選択と指導ができる。 5. う蝕や歯周病、不正咬合などリスクに応じた口腔衛生指導ができる。 6. ライフステージ別の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保険行動が説明できる。 7. ライフステージ別の口腔衛生指導ができる。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	オリエンテーション 口腔衛生管理	講義	【講義について】 ・休まずに受講すること。 ・スライドを使って授業を進めていくのでしっかりと聞き、必ずメモを取ることに。 ・配布プリントは、必ずまとめておき、終講試験に臨むこと。 【演習について】 ・休まずに受講すること。 ・身だしなみをしっかり整えて臨むこと。 ・忘れ物をしないこと。 ・分からないときは、その場で聞くこと。 ・積極的に参加すること。
2	歯ブラシ・電動歯ブラシ・音波ブラシ	講義	
3	歯磨剤・洗口剤・保湿①	講義	
4	歯磨剤・洗口剤・保湿②	講義	
5	ブラッシング法①	講義	
6	ブラッシング法②	講義	
7	補助器具について①	講義	
8	補助器具について②	講義	
9	口腔衛生指導演習①	演習	
10	口腔衛生指導演習②	演習	
11	ライフステージ別歯科衛生介入①	演習	
12	ライフステージ別歯科衛生介入②	講義	
13	ライフステージ別歯科衛生介入③	講義	
14	ライフステージ別歯科衛生介入④	講義	
15	ライフステージ別歯科衛生介入⑤	講義	
16	ライフステージ別歯科衛生介入⑥	講義	
17	ライフステージ別歯科衛生介入⑦	講義	
18	ライフステージ別歯科衛生介入⑧	講義	
19	歯科衛生過程の進め方①	講義	
20	歯科衛生過程の進め方②	講義	
21	歯科衛生過程の進め方③	講義	
22	歯科衛生過程の進め方④	講義	
23	歯科衛生過程の進め方⑤	講義	
24	歯科衛生過程演習①	講義	
25	歯科衛生過程演習②	講義	
26	歯科衛生過程演習③	演習	

27	歯科衛生過程演習④	演習	
28	歯科衛生過程演習⑤	演習	
29	歯科衛生過程演習⑥	講義	
30	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	事前に授業範囲を提示するので教科書を読んでくること。 授業後、再度同じ箇所の教科書を読むこと。 講義と演習を交互に行っていくため、講義内容はしっかりと覚えてくること。
----------	--

成績評価の方法	終講試験は実技試験（１００点満点）と筆記試験（１００点満点）にて６０％以上を合格とする。 その他、出席状況、授業・演習態度、身だしなみも評価に加味する。
---------	--

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第２版」（医歯薬出版株式会社） 「歯科衛生学シリーズ 保健生態学」（医歯薬出版株式会社） 「歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学総論」（医歯薬出版株式会社） 「歯科衛生士のための補綴科アシストハンドブック第2版」（学建書院）
-----------------------------	--

授業要項詳細

科目名	歯科保健指導論Ⅲ	科目分類	専門分野
担当教員	眞田 咲弥	授業形態	講義・演習
対象学年	2 年次	開講時期	前期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	生活習慣病の予防に応じた保健指導を行うための専門的知識、技術および態度を修得する。 ライフステージと機能障害に応じた食生活指導を行うための専門的知識、技術および態度を修得する。
科目の到達目標	1. 口腔保健と生活習慣の関係を説明できる。 2. 非感染性疾患（NCDs）の種類と特徴および口腔との関連を説明できる。 3. 疾患・異常のリスクに応じた生活習慣指導ができる。 4. 食生活・食習慣の背景を説明できる。 5. 各栄養素の役割と望ましい摂取量の基準を学び、食生活指導に必要な食生活と口腔との関わりを説明できる。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	オリエンテーション 生活習慣指導①口臭	講義	【講義について】 ・スライドを使って授業を進めていくのでしっかりと聞き、必ずメモを取る。 ・配布プリントは、必ずまとめておき、終講試験に臨むこと。 【演習について】 ・休まずに受講すること。 ・身だしなみをしっかり整えて臨むこと。 ・忘れ物をしないこと。 ・分からないときは、その場で聞くこと。 ・積極的に参加すること。
2	生活習慣指導②喫煙者に対する指導	講義	
3	生活習慣指導③糖尿病	講義	
4	生活習慣指導④脂質異常症	講義	
5	生活習慣指導⑤その他	講義	
6	栄養の基礎知識 栄養素の働き	講義	
7	食品のう蝕誘発性 代用甘味料	講義	
8	食生活指導①妊産婦期	講義	
9	食生活指導②乳児期	講義	
10	食生活指導③幼児期	講義	
11	食生活指導④学齢期	講義	
12	食生活指導⑤青年期・成人期	講義	
13	食生活指導⑥高齢期	講義	
14	食生活と健康	講義	
15	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	事前に授業範囲を提示するので教科書を読んでくること。 授業後、再度同じ箇所の教科書を読むこと。 講義と演習を交互に行っていくため、講義内容はしっかりと覚えてくること。
----------	---

成績評価の方法	終講試験にて評価する。 その他、出席状況、授業・演習態度、身だしなみも評価に加味する。
---------	--

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」（医歯薬出版株式会社） 「歯科衛生学シリーズ 栄養と代謝」（医歯薬出版株式会社）
------------------	--

授業要項詳細

科目名	歯科保健指導論Ⅳ	科目分類	専門分野
担当教員	眞田 咲弥・佐藤 有美・勝矢 友絵	授業形態	講義・演習
対象学年	2 年次	開講時期	後期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	口腔機能低下と高機能障害に応じた機能向上に向けて、口腔機能管理と指導を行うために専門的知識、技術および態度を修得する。
科目の到達目標	1. 人の加齢と老化の特性と機序および寿命を説明できる。 2. 発達と加齢に伴う形態的および機能的な変化を説明できる。 3. 口腔機能リハビリテーションを説明できる。 4. 口腔機能低下に伴う全身疾患の種類と治療の概要を説明できる。 5. チーム医療に関わる関連職種と歯科衛生士との連携のあり方を説明できる。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	オリエンテーション グループワーク①	演習	【講義について】 ・スライドを使って授業を進めていくのでしっかりと聞き、必ずメモを取ることに。 ・配布プリントは、かならずまとめておき、終講試験に臨むこと。 【演習について】 ・休まずに受講すること。 ・身だしなみをしっかり整えて臨むこと。 ・忘れ物をしないこと。 ・分からないときは、その場で聞くこと。 ・積極的に参加すること。
2	グループワーク②	演習	
3	グループワーク③	演習	
4	グループワーク④	演習	
5	対象別の口腔機能管理①	講義	
6	対象別の口腔機能管理②	講義	
7	口腔機能低下	講義	
8	口腔機能リハビリテーション	講義	
9	相互実習①	演習	
10	相互実習②	演習	
11	相互実習③	演習	
12	相互実習④	演習	
13	口腔機能管理と指導①	講義	
14	口腔機能管理と指導②	講義	
15	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	事前に授業範囲を提示するので教科書を読んでもらうこと。 授業後、再度同じ箇所の教科書を読むこと。 講義と演習を交互に行っていくため、講義内容はしっかりと覚えてもらうこと。
----------	---

成績評価の方法	終講試験は実技試験（100点満点）と筆記試験（100点満点）にて60%以上を合格とする。 グループワークは全て出席すること。 その他、出席状況、授業・演習態度、身だしなみも評価に加味する。
---------	--

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」（医歯薬出版株式会社） 「歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学」（医歯薬出版株式会社） 「歯科衛生士のための補綴科アシストハンドブック第2版」（学建書院）
------------------	--

授業要項詳細

科目名	歯科保健指導論Ⅴ	科目分類	専門分野
担当教員	眞田 咲弥・佐藤 有美・勝矢 友絵	授業形態	講義・演習
対象学年	３年次	開講時期	前期
単位/時間	１単位／３０時間	回数	１５回

授業科目の概要	健康教育活動の場で指導するために、必要な専門知識、技術および態度を修得する。
科目の到達目標	１．健康教育の対象と場の特徴を説明できる。 ２．健康教育に必要な情報を収集し、計画立案が出来る。 ３．健康教育活動の留意点、方法および評価を説明できる。 ４．集団・組織・地域の実態が把握できる。 ５．保育園・幼稚園（乳幼児）を対象とした健康教育ができる。 ６．小学校・中学校・高校（児童・生徒）を対象とした健康教育ができる。 ７．事業所の従業者・衛生管理者を対象とした健康教育ができる。 ８．要介護者の家族・介護者・施設職員の健康教育ができる。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
１	オリエンテーション 健康教育について①	講義	・スライドを使って授業を進めていくのでしっかりと聞き、必ずメモを取る。 ・配布プリントは、必ずまとめておき、終講試験に臨むこと。 ・特に媒体作成はグループワークとなる。全員で役割を決め、担当の役割を責任もっておこなうこと。 - また、担当以外の作業も積極的におこなうこと。
２	健康教育について②	講義	
３	健康教育について③	講義	
４	健康教育について④	講義	
５	健康教育について⑤	講義	
６	媒体作成①	講義・演習	
７	媒体作成②	講義・演習	
８	健康教育について⑥	講義	
９	健康教育について⑦	講義	
１０	健康教育について⑧	講義	
１１	健康教育について⑨	講義	
１２	健康教育について⑩	講義	
１３	媒体作成③	講義・演習	
１４	媒体作成④	講義・演習	
１５	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	事前に授業範囲を提示するので教科書を読んでくること。 授業後、再度同じ箇所の教科書を読むこと。 グループで作成した媒体を使っの発表が試験となるため、作成は計画を立てて進め、終わらない場合はグループで話し合い、授業時間外の時間を使い完成させること。
----------	--

成績評価の方法	終講試験はグループで作成した媒体を使っの発表とし、１００点満点で評価する。 時間や媒体作成内容は講義初回で説明する。
---------	--

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第２版」（医歯薬出版株式会社）
------------------	--

授業要項詳細

科目名	歯科保健指導 総合	科目分類	専門分野
担当教員	眞田 咲弥・佐藤 有美・勝矢 友絵	授業形態	演習
対象学年	3 年次	開講時期	前期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	臨床実習に出るにあたり、今までの学内実習（相互実習）の総まとめとなる。 また、臨床実習中の器具使用の再確認や臨床実習後の最終総括となる。 卒業後、臨床の現場に出た時に即戦力となれるような歯科衛生士を目指すための実習である。
科目の到達目標	1. 1 年次からの全ての科目が繋がって理解できている。 2. 回数を重ねるごとに、知識と技術が向上している。 3. 毎回ステップアップした目標を持ち実習に臨むことができる。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	相互実習①	演習	・休まずに受講すること。 ・身だしなみをしっかり整えて臨むこと。 ・忘れ物をしないこと。 ・毎回、目標を持って参加すること。 ・分からないときは、その場で聞くこと。 ・積極的に参加すること。 ・高価な器材を取り扱うため、丁寧かつ安全に行うこと。
2	相互実習②	演習	
3	相互実習③	演習	
4	相互実習④	演習	
5	相互実習⑤	演習	
6	相互実習⑥	演習	
7	相互実習⑦	演習	
8	相互実習⑧	演習	
9	相互実習⑨	演習	
10	相互実習⑩	演習	
11	相互実習⑪	演習	
12	相互実習⑫	演習	
13	相互実習⑬	演習	
14	相互実習⑭	演習	
15	相互実習⑮	演習	

授業外学習の指示	臨床実習に準じた実習簿を作成すること。 別に課題を出すこともある。提出期限を守り必ず提出すること。
----------	--

成績評価の方法	出席状況、授業・演習態度、身だしなみにて総合的に評価する。
---------	-------------------------------

使用テキスト 参考文献 他	配布済みの全教本
------------------	----------

専門分野

歯科診療補助論

授業要項詳細

科目名	歯科診療補助論Ⅰ	科目分類	専門分野
担当教員	谷地 幸子・下田 哲子・勝矢 友絵	授業形態	講義・演習
対象学年	1 年次	開講時期	前期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	歯科診療における医療を安全、かつ円滑に進めるために必要となる歯科衛生士の役割を理解し、それに関する基礎知識を学習する。
科目の到達目標	さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識、技術および態度を修得する。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	オリエンテーション 歯科診療補助の概要	講義	・休まず受講すること。 ・忘れ物をしないこと。 ・スライドを使って授業を進めていくのでしっかりと聞き、必ずメモを取ること。 ・配布プリントは、必ずまとめておき、終講試験に臨むこと。
2	医療安全と感染予防	講義	
3	感染予防対策	講義	
4	消毒と滅菌	講義	
5	消毒と滅菌	講義	
6	医療廃棄物の取り扱い 薬品（薬物）・歯科材料の管理	講義	
7	診療室の環境・整備、患者対応	講義	
8	ユニット操作	演習	
9	メディコム 手洗い実習	演習	
10	共同動作	講義	
11	共同動作	演習	
12	歯科材料	演習	
13	歯科材料	演習	
14	衛生材料	講義・演習	
15	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	事前に授業範囲を提示するので教科書を読んてくること。 授業後、再度同じ箇所の教科書を読むこと。
----------	--

成績評価の方法	終講試験（筆記試験100点満点）にて評価する。 その他、出席状況、授業・演習態度、身だしなみも評価に加味する。
---------	--

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論」（医歯薬出版株式会社） 「歯科衛生学シリーズ 歯科機器」（医歯薬出版株式会社）
------------------	---

授業要項詳細

科目名	歯科診療補助論Ⅱ	科目分類	専門分野
担当教員	下田 哲子・谷地 幸子・勝矢 友絵	授業形態	講義・演習
対象学年	1 年次	開講時期	後期
単位/時間	2 単位／60 時間	回数	30 回

授業科目の概要	歯科診療の補助、介助を責任もって行うために材料および器具の取り扱いについて学ぶ。歯科診療に必要な材料や器具の種類は数多くある。それぞれの特徴を理解し適切に取り扱うことによって診療がスムーズに行われる。歯科診療で頻用される材料や器具の取り扱いについて実習をおこない、技術を修得する。
科目の到達目標	歯科診療の補助に対応するために、歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および標準的な使用法を習得する。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	歯科材料	講義	・休まず受講すること。 ・スライドを使って授業を進めていくのでしっかりと聞き、必ずメモを取ることを。 ・配布プリントは、必ずまとめておき、終講試験に臨むこと。 ・講義と演習を同時に行うため、忘れ物や身だしなみの周知事項を聞き洩らさないこと。
2	歯科材料	講義	
3	歯科材料	演習	
4	歯科材料	演習	
5	歯科材料	演習	
6	歯科材料	演習	
7	歯科材料	講義	
8	歯科材料	講義	
9	歯科材料	演習	
10	歯科材料	演習	
11	歯科材料	演習	
12	歯科材料	演習	
13	保存修復時の歯科診療補助	講義	
14	保存修復時の歯科診療補助	演習	
15	保存修復時の歯科診療補助	演習	
16	ラバーダム防湿	講義・演習	
17	ラバーダム防湿	演習	
18	ラバーダム防湿	演習	
19	歯内療法時の歯科診療補助	講義	
20	歯内療法時の歯科診療補助	講義	
21	歯内療法時の歯科診療補助	講義・演習	
22	共同動作	演習	
23	共同動作	演習	
24	共同動作	演習	
25	共同動作	演習	
26	歯科材料	演習	
27	歯科材料	演習	
28	歯科診療補助論 まとめ	講義	
29	歯科診療補助論 まとめ	講義	

30	終講試験および解説講義	終講試験 解説	
----	-------------	------------	--

授業外学習の指示	事前に授業範囲を提示するので教科書を読んできること。 授業後、再度同じ箇所の教科書を読むこと。
----------	--

成績評価の方法	定期試験（実技試験100点満点・筆記試験100点満点）にて評価する。 その他、出席状況、授業・演習態度、身だしなみも評価に加味する。
---------	---

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論」（医歯薬出版株式会社） 「歯科衛生学シリーズ 歯科材料」（医歯薬出版株式会社） 「歯科衛生学シリーズ 歯科機器」（医歯薬出版株式会社） 「歯科衛生学シリーズ 保存修復・歯内療法学」（医歯薬出版株式会社）
------------------	---

授業要項詳細

科目名	歯科診療補助論Ⅲ	科目分類	専門分野
担当教員	下田 哲子・谷地 幸子・勝矢 友絵	授業形態	講義・演習
対象学年	2 年次	開講時期	前期
単位/時間	2 単位／60 時間	回数	30 回

授業科目の概要	専門的な歯科診療の補助のために必要な基礎的知識、技術および態度を修得する。
科目の到達目標	さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識、技術および態度を修得する。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	歯科臨床と診療補助①	講義	・休まず受講すること。 ・スライドを使って授業を進めていくのでしっかりと聞き、必ずメモを取ること。 ・配布プリントは、必ずまとめておき、終講試験に臨むこと。 ・講義と演習を同時に行うため、持ち物や身だしなみの周知事項を聞き洩らさないこと。
2	歯科臨床と診療補助②	演習	
3	歯科臨床と診療補助③	演習	
4	歯科臨床と診療補助④	講義	
5	歯科臨床と診療補助⑤	演習	
6	歯科臨床と診療補助⑥	演習	
7	歯科臨床と診療補助⑦	講義	
8	歯科臨床と診療補助⑧	講義	
9	歯科臨床と診療補助⑨	講義	
10	歯科臨床と診療補助⑩	講義	
11	歯科臨床と診療補助⑪	講義	
12	歯科臨床と診療補助⑫	講義	
13	歯科臨床と診療補助⑬	講義	
14	歯科臨床と診療補助⑭	講義	
15	歯科臨床と診療補助⑮	講義	
16	歯科臨床と診療補助⑯	講義	
17	歯科臨床と診療補助⑰	講義	
18	歯科臨床と診療補助⑱	講義	
19	歯科臨床と診療補助⑲	講義	
20	歯科臨床と診療補助⑳	講義	
21	歯科臨床と診療補助㉑	講義	
22	歯科臨床と診療補助㉒	講義	
23	歯科臨床と診療補助㉓	講義	
24	歯科臨床と診療補助㉔	講義	
25	歯科臨床と診療補助㉕	講義	
26	歯科臨床と診療補助㉖	講義	
27	歯科臨床と診療補助 まとめ	講義	
28	歯科臨床と診療補助 まとめ	講義	
29	歯科臨床と診療補助 まとめ	講義	
30	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	事前に授業範囲を提示するので教科書を読んでくること。 授業後、再度同じ箇所の教科書を読むこと。
成績評価の方法	定期試験は実技試験（１００点満点）および筆記試験（１００点満点）にて評価する。 その他、出席状況、授業・演習態度、身だしなみも評価に加味する。
使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論」（医歯薬出版株式会社） 「歯科衛生学シリーズ 歯科材料」（医歯薬出版株式会社） 「歯科衛生学シリーズ 歯科機器」（医歯薬出版株式会社） 「歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学」（医歯薬出版株式会社） 「歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学」（医歯薬出版株式会社） 「歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学」（医歯薬出版株式会社） 「歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学」（医歯薬出版株式会社） 「歯科衛生学シリーズ 歯周病学」（医歯薬出版株式会社） 「歯科衛生学講座 歯科放射線学」（永末書店） 「歯科衛生学講座 小児歯科学」（永末書店）

授業要項詳細

科目名	歯科診療補助論Ⅳ	科目分類	専門分野
担当教員	下田 哲子・谷地 幸子・勝矢 友絵	授業形態	講義・演習
対象学年	2 年次	開講時期	後期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	専門的な歯科診療の補助のために必要な基礎的知識、技術および態度を修得する。
科目の到達目標	さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識、技術および態度を修得する。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	歯科臨床と診療補助①	講義	・休まず受講すること。 ・スライドを使って授業を進めていくのでしっかりと聞き、必ずメモを取ること。 ・配布プリントは、必ずまとめておき、終講試験に臨むこと。 ・講義と演習を同時に行うため、持ち物や身だしなみの周知事項を聞き洩らさないこと。
2	歯科臨床と診療補助②	講義	
3	歯科臨床と診療補助③	講義	
4	歯科臨床と診療補助④	講義	
5	歯科臨床と診療補助⑤	講義	
6	歯科臨床と診療補助⑥	講義	
7	歯科臨床と診療補助⑦	講義	
8	歯科臨床と診療補助⑧	講義	
9	歯科臨床と診療補助⑨	講義	
10	歯科臨床と診療補助⑩	講義・演習	
11	歯科臨床と診療補助⑪	講義	
12	歯科臨床と診療補助⑫	講義	
13	歯科臨床と診療補助 まとめ	講義	
14	歯科臨床と診療補助 まとめ	講義	
15	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	事前に授業範囲を提示するので教科書を読んでくること。 授業後、再度同じ箇所の教科書を読むこと。
----------	--

成績評価の方法	定期試験は実技試験（100点満点）および筆記試験（100点満点）にて評価する。 その他、出席状況、授業・演習態度、身だしなみも評価に加味する。
---------	--

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論」（医歯薬出版株式会社） 「歯科衛生学シリーズ 歯科材料」（医歯薬出版株式会社） 「歯科衛生学シリーズ 歯科機器」（医歯薬出版株式会社） 「歯科衛生学シリーズ 口腔外科・歯科麻酔」（医歯薬出版株式会社） 「歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学」（医歯薬出版株式会社） 「歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学」（医歯薬出版株式会社） 「歯科衛生学シリーズ 臨床検査」（医歯薬出版株式会社）
------------------	---

授業要項詳細

科目名	歯科診療補助 総合	科目分類	専門分野
担当教員	下田 哲子・谷地 幸子・勝矢・友絵	授業形態	講義・演習
対象学年	3 年次	開講時期	前期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	臨床実習に出るにあたり、今までの学内実習（相互実習）の総まとめとなる。 また、臨床実習中の器具使用の再確認や臨床実習後の最終総括となる。 卒業後、臨床の現場に出た時に即戦力となれるような歯科衛生士を目指すための実習である。
科目の到達目標	1. 1 年次からの全ての科目が繋がって理解できている。 2. 回数を重ねるごとに、知識と技術が向上している。 3. 毎回ステップアップした目標を持ち実習に臨むことができる。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	歯科診療補助論総合①	講義	・休まずに受講すること。 ・身だしなみをしっかり整えて臨むこと。 ・忘れ物をしないこと。 ・毎回、目標を持って参加すること。 ・分からないときは、その場で聞くこと。 ・積極的に参加すること。 ・高価な器材を取り扱うため、丁寧かつ安全に行うこと。
2	歯科診療補助論総合②	演習	
3	歯科診療補助論総合③	演習	
4	歯科診療補助論総合④	演習	
5	歯科診療補助論総合⑤	講義	
6	歯科診療補助論総合⑥	演習	
7	歯科診療補助論総合⑦	演習	
8	歯科診療補助論総合⑧	演習	
9	歯科診療補助論総合⑨	講義	
10	歯科診療補助論総合⑩	演習	
11	歯科診療補助論総合⑪	演習	
12	歯科診療補助論総合⑫	演習	
13	歯科診療補助論総合⑬	講義	
14	歯科診療補助論総合⑭	講義	
15	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	臨床実習に準じた実習簿を作成すること 別に課題を出すこともある。提出期限を守り必ず提出すること。
----------	---

成績評価の方法	終講試験（筆記試験100点満点）にて評価する。 その他、出席状況、授業・演習態度、身だしなみにて総合的に評価する。
---------	--

使用テキスト 参考文献 他	配布済みの全教本
------------------	----------

授業要項詳細

科目名	臨床検査	科目分類	専門分野
担当教員	高橋 賀美	授業形態	講義
対象学年	2 年次	開講時期	前期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	全身疾患を有する患者さんに対し、臨床検査を学ぶことで臨床の場で活用できるようにする。
科目の到達目標	1. 臨床検査の重要性を理解する。 2. 臨床検査で扱われる検査材料、検査項目を理解する。 3. 検査成績を読んで理解できるようにする。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	臨床検査総論	講義	
2	尿検査	講義	
3	血液検査	講義	
4	貧血の検査Ⅰ	講義	
5	貧血の検査Ⅱ	講義	
6	出血性素因の検査Ⅰ	講義	
7	出血性素因の検査Ⅱ	講義	
8	中間試験	中間試験	
9	糖尿病の検査Ⅰ	講義	
10	糖尿病の検査Ⅱ	講義	
11	感染症の検査Ⅰ	講義	
12	感染症の検査Ⅱ	講義	
13	腎機能の検査	講義	
14	口腔機能検査	講義	
15	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	教科書、授業プリントを使用し、復習を必ず行うようにすること。
----------	--------------------------------

成績評価の方法	出席状況・授業態度（20％）、中間試験・終講試験（80％）にて評価する。
---------	--------------------------------------

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 臨床検査」（医歯薬出版株式会社）
------------------	-----------------------------

業要項詳細

科目名	救急処置・心肺蘇生	科目分類	専門分野
担当教員	吉崎 里香	授業形態	講義・演習
対象学年	2年次	開講時期	後期
単位/時間	1単位／30時間	回数	15回

授業科目の概要	救急処置と蘇生法の基礎を学び、歯科医療スタッフの一員として現場で応用できるようになることを目的とする。
科目の到達目標	歯科の臨床現場で、緊急時、正しい救急処置と心肺蘇生法を行うことができるようにする。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	バイタルサインの評価 心肺蘇生法(BLS)の知識・手技の修得	講義	
2	ガイダンス 応急手当の重要性	講義	
3	応急手当の重要性 救命の処置（心肺蘇生・AEDについて）	講義	
4	歯科口腔外科診療時の局所的・全身的偶発症、その症状、重症度評価、救急初期対処法、全身管理	講義	
5	特殊な傷病とその応急手当	講義	
6	全身的基礎疾患を有する歯科口腔外科患者の病態評価、全身管理、発症時の緊急処置、救急対処法	講義	
7	局所麻酔法、全身麻酔法、精神鎮静法、および、周術期 患者管理、周術期合併症と緊急処置、救急対処法	講義	
8	特殊な傷病とその応急手当①	講義	
9	特殊な傷病とその応急手当②	講義	
10	インシデント・アクシデント報告、医療事故と法的責任、患者の全身管理で歯科衛生士に期待される役割についての理解	講義	
11	止血法、体位管理、救急医療	講義	
12	心肺蘇生法①	講義・演習	動きやすい服装で参加すること。
13	心肺蘇生法②	講義・演習	
14	心肺蘇生法③、AED、止血法	講義・演習	
15	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	教科書やプリントを参考に予習および復習を行うこと。
----------	---------------------------

成績評価の方法	終講試験にて評価する。
---------	-------------

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生学シリーズ 口腔外科・歯科麻酔」（医歯薬出版株式会社）
------------------	----------------------------------

専門分野

臨地実習
(臨床実習を含む。)

授業要項詳細

科目名	臨床基礎実習	科目分類	専門分野
担当教員	専任教員	授業形態	講義・実習
対象学年	2 年次	開講時期	前期
単位/時間	1 単位／4 5 時間	回数	2 3 回

授業科目の概要	臨地・臨床実習に出る前に歯科衛生士業務を実践するために、1・2 年次で修得した知識・技術をもとに歯科衛生士として必要な知識、技術および態度を身につける。
科目の到達目標	1. 対象者に応じたコミュニケーションがとれる。 2. 医療安全管理に配慮した行動ができる。 3. 歯科衛生士に必要なスクリーニングと検査ができる。 4. 資料やデータから歯科衛生士業務の内容を判断し、行動できる。 5. 口腔内に適した器具を使用できる。 6. 予防的歯石除去の実際ができる。 7. ホームケアにおけるフッ化物応用を選択し、指導できる。 8. 対象者に応じた口腔保健管理指導ができる。 9. 実習記録を記載できる。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	オリエンテーション 計画・立案のケース（症例）	講義	・実習の流れ、施術内容の確認、実習記録の記入方法などを教授する。 ・講義をしっかりと聞き、メモを取ること。
2・3 4・5	患者実習①	実習	・安全に実習を行うこと。 ・欠席しないこと。 ・身だしなみを整え、遅刻せず参加すること。 ・忘れ物をしないこと。 ・自己判断で動かないこと。 ・歯科予防処置論Ⅵの臨床基礎実習の説明に参加していない場合は、患者実習を許可できないこともある。
6・7 8・9	患者実習②	実習	
10・11 12・13	患者実習③	実習	
14・15 16・17	患者実習④	実習	
18・19 20・21	患者実習⑤	実習	
22・23	振り返り・総まとめ グループ症例発表	講義	・フィードバックを行い、グループディスカッションで進めていく。

授業外学習の指示	・患者さんのアポイントをしっかりと取ること。 ・実習終了後は患者さんにお礼を伝えること。 ・実習日誌は必ずその日の内に作成すること。 ・分からないことがあれば、その日の内に調べてメモを取ること。
----------	--

成績評価の方法	出席状況、提出物、実習への参加態度、および身だしなみも加味し総合的に評価する。
---------	---

使用テキスト 参考文献 他	事前配布プリント 配布済みの全教本
------------------	----------------------

授業要項詳細

科目名	臨地・臨床実習Ⅰ	科目分類	専門分野
担当教員	専任教員	授業形態	実習
対象学年	2 年次	開講時期	後期
単位/時間	7 単位／3 1 5 時間	回数	

授業科目の概要	歯科診療所、福祉施設等の歯科衛生士の活動する場において実習を行い、歯科衛生士として必要な知識・技術・態度を学ぶ。
科目の到達目標	基礎知識・技能を発展させるために、患者や施設スタッフとコミュニケーションを取りながら、自発的に実践に必要な知識・技術・態度を修得する。

授業外学習の指示	実習記録は必ずその日の内に作成すること。 分からないことがあれば、その日の内に調べてメモを取ること。
----------	---

成績評価の方法	オリエンテーション・登院式に参加することを前提とする。 出席状況・提出物・実習評価表にて総合的に評価する。
---------	--

使用テキスト 参考文献 他	配布済みの全教本 配布済みの全講義資料
------------------	------------------------

日程

別マニュアルに指定

授業要項詳細

科目名	臨地・臨床実習Ⅱ	科目分類	専門分野
担当教員	専任教員	授業形態	実習
対象学年	3年次	開講時期	通年
単位/時間	10単位／450時間	回数	

授業科目の概要	歯科診療所、福祉施設等の歯科衛生士の活動する場において実習を行い、歯科衛生士として必要な知識・技術・態度を学ぶ。
科目の到達目標	基礎知識・技能を発展させるために、患者や施設スタッフとコミュニケーションを取りながら、自発的に実践に必要な知識・技術・態度を修得する。

授業外学習の指示	実習記録は必ずその日の内に作成すること。 分からないことがあれば、その日の内に調べてメモを取ること。
----------	---

成績評価の方法	出席状況・提出物・実習評価表にて総合的に評価する。
---------	---------------------------

使用テキスト 参考文献 他	配布済みの全教本 配布済みの全講義資料
------------------	------------------------

日程

別マニュアルに指定

授業要項詳細

科目名	臨地・臨床実習Ⅲ	科目分類	専門分野
担当教員	専任教員	授業形態	実習
対象学年	3年次	開講時期	通年
単位/時間	3単位／135時間	回数	

授業科目の概要	歯科診療所、福祉施設等の歯科衛生士の活動する場において実習を行い、歯科衛生士として必要な知識・技術・態度を学ぶ。
科目の到達目標	基礎知識・技能を発展させるために、患者や施設スタッフとコミュニケーションを取りながら、自発的に実践に必要な知識・技術・態度を修得する。

授業外学習の指示	実習記録は必ずその日の内に作成すること。 分からないことがあれば、その日の内に調べてメモを取ること。
----------	---

成績評価の方法	出席状況・提出物・実習評価表にて総合的に評価する。
---------	---------------------------

使用テキスト 参考文献 他	配布済みの全教本 配布済みの全講義資料
------------------	------------------------

日程

別マニュアルに指定

選択必修分野

授業要項詳細

科目名	歯科保険請求事務	科目分類	選択必修科目
担当教員	柴野 莊一	授業形態	講義
対象学年	3 年次	開講時期	前期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	歯科診療報酬制度は、日本の医療保険制度の根幹をなす仕組みであり、日本の総医療費や歯科臨床現場における診療内容に大きな影響を与える制度である。近年、歯科診療報酬制度において、歯科衛生士を評価する項目が増えつつあるという状況を踏まえ、歯科診療報酬制度を概観し、歯科医療機関の収入源としてのみならず、医療費の配分や医療提供体制の在り方にも関わる歯科診療報酬制度について、理解を深めていく。
科目の到達目標	日本の医療保険制度について理解する。 日本の歯科診療報酬制度について理解する。 歯科診療報酬制度と歯科衛生士の関わりについて理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	医療保険制度の概要 保険診療の概念 医療保険制度の体系 日本の医療保険制度の特徴 医療費の患者負担 保険医と保険医療機関 請求・審査・支払い	講義	教科書の該当するページに目を通しておくこと。
2	歯科衛生士と歯科診療報酬 医療専門職と診療報酬 歯科衛生士と診療報酬 歯科衛生士数の増加と保険点数	講義	教科書の該当するページに目を通しておくこと。
3	歯科点数表総論 歯科点数表とは何か 歯科点数表はどのように決まるのか 中央社会保険医療協議会 歯科診療報酬の構成 電子レセプトと紙レセプト	講義	教科書の該当するページに目を通しておくこと。
4	歯科点数表の特徴① 用語 算定の単位 算定の回数（回数制限の有無） 他の項目の算定と関係する項目	講義	教科書の該当するページに目を通しておくこと。
5	歯科点数表の特徴② 略称 算定項目の細分化 診療日が複数日にまたがる 材料の使用頻度が高い	講義	教科書の該当するページに目を通しておくこと。
6	初診料と再診料（基本診療料） 初診料 再診料	講義	教科書の該当するページに目を通しておくこと。
7	第1回～第6回までの理解度確認のための中間試験	中間試験	第1回～第6回までの講義内容をよく復習しておくこと。

8	中間試験の返却 解説講義	双方向授業	第7回実施の授業内試験において、解らなかった点などをはっきりさせておく。
9	各論（特掲診療料）① 歯科衛生士に関連する項目 歯周治療 周術期口腔機能管理 在宅医療	講義	教科書の該当するページに目を通しておくこと。
10	各論（特掲診療料）② その他の日常臨床に必要な項目 修復 歯内療法	講義	教科書の該当するページに目を通しておくこと。
11	各論（特掲診療料）③ その他の日常臨床に必要な項目 クラウンブリッジ 有床義歯	講義	教科書の該当するページに目を通しておくこと。
12	各論（特掲診療料）④ その他の日常臨床に必要な項目 拔牙 エックス線診断 投薬 その他の主な処置	講義	教科書の該当するページに目を通しておくこと。
13	事例① 歯周治療 周術期口腔機能管理	講義	教科書の該当するページに目を通しておくこと。
14	事例② 在宅医療	講義	教科書の該当するページに目を通しておくこと。
15	終講試験と解説講義	終講試験 解説	これまでの授業内容をよく復習しておくこと。

授業外学習の指示	事前学習としては、教科書の各回の授業内容に該当するページに目を通しておくこと。 事後学習としては、授業で提示した内容や資料等を用いて、よく復習すること。
----------	---

成績評価の方法	第7回に実施する授業内試験（50％）とすべての授業終了後に実施する終講試験（50％）にて評価する。
---------	---

使用テキスト 参考文献 他	教科書 「歯科衛生士のための歯科診療報酬入門 2024-2025」（医歯薬出版株式会社） ISBN：978-4263423264 参考書 「全科実例による 社会保険歯科診療 令和8年版」（医歯薬出版株式会社） ISBN：978-4263448557
------------------	---

授業要項詳細

科目名	コミュニケーション技法	科目分類	選択必修分野
担当教員	飯田 智市	授業形態	講義・演習
対象学年	2年次	開講時期	前期
単位/時間	1単位／30時間	回数	15回

授業科目の概要	歯科医療の現場においては、患者がおかれている状況を理解し、状況に応じたコミュニケーション能力、および多職種協議におけるコミュニケーション能力を身につけることが求められる。また患者が自身の健康を維持するために必要な支援が行えるよう、患者と適切な人間関係を作ることが必要となる。この授業では、実践を通してこれらの能力を習得する。
科目の到達目標	1. コミュニケーションの基本を理解し、聞き手に伝わる伝え方を習得する。 2. アサーティブな自己表現方法を習得する。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	オリエンテーション コミュニケーション基礎	講義	コミュニケーションの基本を復習する。
2	1. コミュニケーションの基本を身につける 自己紹介	講義	グループで互いに自己紹介をし、発声の仕方や内容について、伝わりやすい自己紹介であるかグループ内でディスカッション、フィードバックを行なう。
3	2. コミュニケーションの基本を身につける 話し上手とは あいさつ	講義・演習	言葉の重要性、話し方のコミュニケーションに及ぼす影響や、円滑なコミュニケーションを始めるためのあいさつについて理解し、グループで演習を行なう
4	3. コミュニケーションの基本を身につける 発声と発音	講義・演習	聞き手にとって、明確で聞き取りやすい話し方について学ぶ。
5	1. 社会人のマナーとしてのコミュニケーション 敬語	講義・演習	その場にいる人が気持ちよく過ごすためのコミュニケーションの方法で、相手に対する思いやりであるマナーについて理解し、グループワークやペアワークを通して、様々なケースに対応できるよう実践力を高める。
6	2. 社会人のマナーとしてのコミュニケーション 電話応対	講義・演習	
7	話すときの心構え	講義	「聞き手に伝わる話」のための準備として必要なことを理解する
8	1. 効果的な話し方	講義・演習	聞き手に、より適切により効果的に伝えていくための技術について、講義と演習により理解を深める。
9	2. 効果的な話し方	講義・演習	
10	効果的な表現方法	講義・演習	非言語コミュニケーションが聞き手に与える影響を考えながら、効果的な表現方法を学ぶ。
11	聴き方	講義・演習	コミュニケーションの重要な要素のひとつである「聴くこと」について学ぶ。
12	アサーティブ コミュニケーション	講義・演習	ロールプレイングを通して、アサーティブな自己表現方法を習得する。
13	1. プレゼンテーション	演習	コミュニケーション技法のまとめとして、「聞き手に伝わる」ことを目的としたプレゼンテーションを行なう。
14	2. プレゼンテーション	演習	

15	終講試験および解説講義	終講試験 解説	
授業外学習の指示	予習および復習を行うこと。		
成績評価の方法	終講試験（40％）、プレゼンテーション（60％）にて評価する。		
使用テキスト 参考文献 他	「コミュニケーション技法」（株式会社ウイネット）		

授業要項詳細

科目名	介護技術	科目分類	選択必修分野
担当教員	馬場 千草	授業形態	講義・演習
対象学年	2年次	開講時期	後期
単位/時間	1単位／30時間	回数	15回

授業科目の概要	介護とはその人の人生を支えることである。超高齢者社会の日本では介護技術は特別なことではなく、あたりまえのこととしてとらえることが求められている。 人の自然な動作を理解し、その人の困っていることにたいして支援ができる知識技術を学ぶとともに支援者も人であることから、支援者にとって負担の少ない動作を身につけるものとする。
科目の到達目標	「利用者主体」「自立支援」を理解し実践できる。 介護者の姿勢を理解し負担の少ない動作が実践できる。 支援者としてのコミュニケーション技術を身につける。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	・オリエンテーション	講義・演習	・授業概要説明。
2	・介護に関する基本的な知識	講義・演習	・自己紹介等を通じて話人に好かれるし方・聞き方を体験的に学ぶ。（接遇）
3	・要介護者とのコミュニケーション技術（説明と同意）	講義・演習	・ボディメカニクスを学び介護者と要介護者ともに負担の少ない身体の使い方など演習を通じて体験する。
4	・ボディメカニクス（身体の使い方）の原理・原則	講義・演習	・自然な身体の動き方、使い方を知る。
5	・ベッドメイキング中のボディメカニクス	講義・演習	・要介護者の状況に応じた介助。（杖歩行・視覚障害者の歩行介助）
6	・移動・移乗の介護① 座位・立位・歩行（手引き歩行・杖歩行・白杖歩行）	講義・演習	・車いすの種類と部位名称。
7	・移動・移乗の介護② 車いすの種類と部位名称・車いすの操作と介助方法	講義・演習	・車いすへの移乗介助の方法。
8	・移動・移乗の介護③ 車いすの種類と部位名称・車いすの操作と介助方法	講義・演習	・車いすの操作方法。
9	・移動・移乗の介護④ 車いすの種類と部位名称・車いすの操作と介助方法	講義・演習	・要介護者の身体状況を設定し要介護者の状況に応じた援助方法を考える。
10	・移動・移乗の介護⑤ 車いすの種類と部位名称・車いすの操作と介助方法	講義・演習	・持ち上げない会議（ボディメカニクスを活用した介護技術）
11	・移動・移乗の介護⑥ 車いすの種類と部位名称・車いすの操作と介助方法	講義・演習	・食事介助体験。
12	・食事の介護 摂食と嚥下機能・身体状況に応じた食事形態	講義・演習	・ユニバーサルフードの試食。とは。
13	・服薬の基礎知識と介助の方法	講義・演習	・服薬ゼリーを用いた服薬の介助。
14	・認知症の理解 認知症の基礎知識	講義・演習	・認知症の基本知識とコミュニケーション方法について学ぶ。（ユマニチュード）
15	・認知症のある人とのコミュニケーション方法 振り返り	終講試験 解説	・評価

授業外学習の指示	予習および復習をしっかりと行うこと。
----------	--------------------

成績評価の方法	出席状況、授業態度、身だしなみ（動きやすい服装・髪の毛をまとめる）、課題提出及び終講試験（筆記）にて総合的に評価する。
---------	---

使用テキスト 参考文献 他	「いちばんわかりやすい介護技術」（永岡書店）
------------------	------------------------

授業要項詳細

科目名	摂食・嚥下	科目分類	選択必修分野
担当教員	柴野 莊一	授業形態	講義
対象学年	2 年次	開講時期	後期
単位/時間	1 単位／15 時間	回数	8 回

授業科目の概要	ヒトが生きるために不可欠である「口から食べることを可能にしているのが、摂食嚥下機能である。その機能およびそれをもたらす生体の構造について学習する。また、その機能の障害（摂食嚥下障害）とそのリハビリテーションについても学習する。
科目の到達目標	摂食嚥下に関係する生体の構造と機能についての理解を深める。 診療所や病院といった医療機関のみならず、在宅医療の場面、さらには介護福祉施設等において、摂食嚥下障害をアセスメントし、改善・回復に資する知識・技能の理解を深める。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	摂食嚥下の各種検査および評価② 情報収集・各種検査と評価	講義	摂食嚥下の評価に関し、必要な情報や検査にはどのようなものがあるかを書籍やインターネット等で調べておく。
2	疾患別摂食嚥下障害① 脳血管疾患 頭部外傷およびその他の脳損傷	講義	摂食嚥下障害につながる脳血管疾患や頭部外傷およびその他の脳損傷について、書籍やインターネット等で調べておく。
3	疾患別摂食嚥下障害② 小児疾患	講義	摂食嚥下障害につながる小児疾患について、書籍やインターネット等で調べておく。
4	疾患別摂食嚥下障害③ 神経筋疾患	講義	摂食嚥下障害につながる神経筋疾患について、書籍やインターネット等で調べておく。
5	疾患別摂食嚥下障害④（悪性腫瘍等の器質的嚥下障害をきたすものを中心に） 頭頸部疾患	講義	摂食嚥下障害につながる頭頸部疾患について、書籍やインターネット等で調べておく。
6	疾患別摂食嚥下障害⑤ 内科的疾患	講義	摂食嚥下障害につながる内科的疾患について、書籍やインターネット等で調べておく。
7	授業内試験	授業内試験	本授業の1～6回目および科目「高齢者歯科学」における柴野担当回（5回分）につき、よく復習しておく。
8	授業内試験の返却と解説講義	解説講義	授業内試験における不明点や疑問点を明らかにしておく。

授業外学習の指示	事前学習としては、上記の「授業の進め方・留意点」に記載の準備をしておくこと。 事後学習としては、授業で提示した内容や資料等を用いて、よく復習すること。
----------	--

成績評価の方法	本授業の1～6回目および科目「高齢者歯科学」における柴野担当回（5回分）を範囲とする授業内試験（100％）にて評価する。
---------	--

使用テキスト 参考文献 他	教科書 特に指定しない。（配布資料を用いて講義を行う） 参考書 ・才藤ほか、『摂食嚥下リハビリテーション 第3版』。医歯薬出版株式会社、2016年。 ・Groherほか、『Groher & Craryの嚥下障害の臨床マネジメント 原著第3版』。医歯薬出版株式会社、2023年。
------------------	--

授業要項詳細

科目名	オーラルメディシン	科目分類	選択必修分野
担当教員	橘 継国	授業形態	講義
対象学年	2 年次	開講時期	前期
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

授業科目の概要	オーラルメディシン（口腔外科）とは「歯科疾患の口腔だけに視点を向けず、大局的立場に立ち、全身的背景を考慮した口腔疾患の診断と治療を目的とし、外科的なアプローチを主体とせず口腔の医療にあたるもの」と定義されている。 本授業では口腔内科が扱う疾患の知識だけではなく歯科診療に関する全身の疾患を基礎から学び、それらの管理法に関する知識も習得する。
科目の到達目標	1. 患者の全身的健康状態や全身疾患を把握するための医療情報、口腔内科学が扱う疾患の特徴と症状、診断法及び治療法を理解する。 2. 歯科衛生士業務を行う為に必要な全身管理、局所麻酔、精神鎮静法及び全身麻酔を理解する。 3. 救命救急処置のための必要なバイタルサインの測定や処置器材の使用法を習得する。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	全身の診かたと口腔顔面の診かた 検査の意義と種類	講義	
2	全身疾患に関連する口腔顎顔面疾患	講義	
3	歯科診療に関連する全身の疾患① 循環器・脳血管	講義	
4	歯科診療に関連する全身の疾患② 代謝内分泌	講義	
5	歯科診療に関連する全身の疾患③ 消化器・泌尿器	講義	
6	妊産婦・小児の歯科診療	講義	
7	歯科診療に関連する全身の疾患④ アレルギー・自己免疫・呼吸器	講義	
8	歯科診療に関連する全身の疾患⑤ 血液疾患・精神疾患・感染症	講義	
9	高齢者および要介護者への対応・周産期口腔機能 管理、口腔疾患の早期発見と予防および生活指導	講義	
10	局所麻酔①	講義	
11	局所麻酔②	講義	
12	麻酔管理（精神鎮静法・全身麻酔）	講義	
13	全身管理とモニタリング	講義	
14	救急救命措置	講義	
15	終講試験および解説講義	終講試験 解説	

授業外学習の指示	授業中に理解度チェックの例題を取り扱うので、授業の復習と併せて復習を怠らないこと。
----------	---

成績評価の方法	授業の出席率と終講試験にて評価する。
---------	--------------------

使用テキスト 参考文献 他	「歯科衛生士のための口腔内科 全身と口腔をつなぐオーラルメディシン」（医歯薬出版株式会社） 「歯科衛生士テキスト 歯科麻酔学・全身管理学 第3版」（学建書院）
------------------	---

授業要項詳細

科目名	看護概論	科目分類	選択必修分野
担当教員	秋田 眞理子	授業形態	講義
対象学年	3年次	開講時期	前期
単位/時間	1単位／30時間	回数	15回

授業科目の概要	看護とは何かを学ぶことを目的とし、看護を構成する主要概念である「人間」「健康」「看護」の定義を理解する。特に「人間」の概念を理解するために、『成長・発達する人間』『生活統合体』『環境と共存する』視点を導入とする。「健康」の概念では、『病気を抱えていても健康』という統合モデルを通して、新たな「健康の概念」を学修する。 看護は、看護者自身が対象へ働きかける倫理的な行為であり、この働きかける態度として「ケア」を超えた「ケアリング」という概念を学び、看護における倫理の必要性を学修する。
科目の到達目標	1. 看護の概念を理解する。 2. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・spiritualな側面を持つ統合体として理解する。 3. 「ケア」「ケアリング」の概念を通して看護の目的・役割を理解する。 4. 看護実践における倫理と価値、倫理的ジレンマとは何かを学ぶ。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	看護の歴史―職業としての看護 ―ナイチンゲールの看護の業績	講義	別紙配布資料に目を通しておくこと
2	1. 看護の対象である人間理解① 1) 成長発達する人間： 人間とは何か―一生の営み―生きている、たくましく、良く生きていく 2) 発達課題とライフスタイル―成長発達の概念 3) 基本的欲求―ヘンダーソン、マズロー	講義・演習	演習1. エリクソン、ハビーガースト生活統合体の発達課題を参照し、自分自身の発達課題の考察
3	1. 看護の対象である人間理解② 1) 生活統合体 身体的・精神的・社会的・spiritualな側面を持つ統合体	講義・演習	演習1. 演習事例「浜崎まゆみ」 身体的・精神的・社会的・spiritualな側面を持つ事実の見つけ方 演習2. 発達課題と基本的欲求を示す事実の見つけ方
4	発達課題からみる「対」の概念	演習	演習3. 「対」の概念のとらえ方
5	1. 看護の対象である人間理解③ 1) 環境と共存する 2) ストレス コーピング行動 3) 内部環境としてのホメオスタシス、外部環境	講義・演習	演習1. 「浜崎まゆみ」さんのコーピング行動の分類
6	2. 健康の概念① 1) 健康の定義 2) 病気、ウェルネス、安寧の定義 3) WHOの定義 4) ナイチンゲールの定義 ヘンダーソンの定義	講義・演習	演習1. 自分自身を「健康」だと感じるとき 演習2. WHO「健康の定義」からみる健康の定義を知る意義

7	2. 健康の概念② 1) 病気を抱えていても健康 2) 病気という視点からみる健康の概念 3) 安定性 実現性としての健康 4) 健康と病気のモデル 健康と病気の統合	講義・演習	演習1. 「病気を抱えていても健康」の表現を変換する試み
8	3. 看護の概念① 1) 看護とは何か 2) ケアとは何か ケアの本質	講義・演習	演習1. ケアされたこと ケアしたこと
9	3. 看護の概念② 1) ケアリングとは何か 2) ケアとケアリングの関係	講義	演習1. 「温かな連鎖起こそう 一僕はあきらめない」
10	3. 看護の概念③ 1) 看護の構造 2) 看護の定義と特性	演習	演習1. 「温かな連鎖起こそう 一僕はあきらめない」
11	3. 看護の概念④ 1) 専門職能団体の定義－JNA ANA ICNの定義 2) 尊厳を守る看護	講義・演習	演習1. 「浜崎まゆみ」さんの尊厳を守る看護
12	3. 看護の概念⑤ 1) 力 知識 意志－ヘンダーソン 2) 「皮膚の内側へ入る」とは？	講義・演習	演習1. 「浜崎まゆみ」さんに必要な「力」 「知識」「意志」
13	3. 看護の概念⑥ 1) 看護理論家が提唱する看護 「ナイチンゲール」「ヘンダーソン」	講義・演習	演習1. 「脳梗塞の在宅療養者の看護」
14	4. 看護における倫理 1) 倫理 価値 2) 倫理的ジレンマ	講義・演習	演習1. 「見ているものが違うから起ること」
15	終講試験および解説講義	終講試験 解説	客観テスト

授業外学習の指示	講義開始前に提示する。
----------	-------------

成績評価の方法	客観テスト（60％）、レポート（20％）、演習（20％）を総合的に評価する。
---------	--

使用テキスト 参考文献 他	「ナースング・グラフィカ 基礎看護学 看護学概論」（メディカ出版） 「看護覚え書」（現代社） 「看護の基本となるもの」（日本看護協会出版会）
------------------	--

授業要項詳細

科目名	研究の基礎	科目分類	選択必修分野
担当教員	高橋 道明・柴野 莊一 園田 央瓦・田島 聖士	授業形態	講義
対象学年	3年次	開講時期	前期
単位/時間	1単位／30時間	回数	15回

授業科目の概要	歯科衛生学における研究の意義を理解し、研究実施の具体的な手順（研究の考え方・研究のプロセス・統計解析・研究成果の発表）を学修する。
科目の到達目標	歯科衛生学（歯科衛生士が法定の業務である予防処置・歯科診療の補助・歯科保健指導を専門職として実施するための理論的・実践的根拠となる学問）における科学的な追及方法を理解し、研究の必要性や実施手順を習得する。

授業回数	授業内容	授業方法	授業の進め方・留意点
1	医療研究とは	講義	医療研究の基本的な考え方を、歯科衛生実践との関連を意識しながら解説する。これまで学習してきた中での疑問を話題提供できるよう自分の経験を想起しておく。
2	臨床の疑問と医療研究	講義	医療に関連する話題を通して疑問を取り上げ、研究課題へとつなげる考え方を学ぶ。疑問を「調べられる形」に言い換える練習も行う。
3	研究情報を知るための文献検索	講義	文献検索の目的と基本的な方法を解説し、キーワードの設定、検索範囲の絞り方、論文情報の確認方法を学ぶ。講義全体で活用するため、量的・質的な文献をそれぞれ検索する。
4	研究デザイン	講義	研究デザインの基本類型について、症例報告、質問紙調査、観察研究、介入研究などの違いを説明する。
5	医療研究における倫理	講義	個人情報保護、同意取得、対象者への配慮など、医療研究に必要な倫理的視点を事例に基づいて学ぶ。倫理審査など研究に必要な手続きなども整理する。
6	研究計画の立案	講義	研究テーマ、目的、対象、方法、評価項目の整理の仕方を概説し、実際に研究計画案を作成する。
7	データ収集と分析	講義	データ収集の方法と基本的な集計・分析の考え方を学ぶ。主に量的な側面を中心に、平均値、割合、比較など、基礎的な見方を中心に扱う。
8	学会発表	講義	研究成果を第三者にわかりやすく伝える意義と、発表資料作成の基本を学ぶ。学会で一般的な口演と示説形式の資料を少人数のグループで作成して発表する。
9	公衆衛生・疫学・統計	講義	教科書の該当するページに目を通しておく。
10	研究論文の作成	講義	研究論文の「構成と文章」「注記と要約（タイトル）」「校正と仕上げ」について解説する。
11	質的研究	講義	研究の方法（メソッド）のうち、質的研究を量的研究と対比させながら解説する。

1 2	医療研究の実際	講義	上記までの知識をもとに、実際の研究を紹介しながら、対象の研究の着想から実施、分析、発表までの流れを総合的に理解する。
1 3	歯科研究の実際①	講義	受講生に最も身近と思われる、本授業回担当の教員が指導した学部学生による研究とその報告（発表および論文作成）の例を提示する。
1 4	歯科研究の実際②	講義	教科書の該当するページに目を通しておく。
1 5	終講試験および解説講義	終講試験 解説	第1～14回までの内容を、よく復習しておくこと。

授業外学習の指示	事前学習としては、「授業の進め方・留意点」に記載の各回の内容を実施しておく。 事後学習としては、各回の講義資料等を用い、復習をしておく。
----------	---

成績評価の方法	各自で論文を読み、所定の様式で作成された「文献メモ」50%、終講試験50%にて評価する。
---------	--

使用テキスト 参考文献 他	教科書 「歯科衛生研究の進め方 論文の書き方 第3版」（医歯薬出版株式会社） 参考書 必要に応じ、授業内にて提示する。
------------------	--

